

AISIN REPORT 2011

経営年次報告書 2011年3月期



ごあいさつ	02
グループ概要	03
トップメッセージ	05
揺るぎない成長を目指して—— 環境負荷低減に貢献する商品の開発を推進するとともに、 新興国市場での事業基盤の強化に取り組んでいます。	
Close up 1	09
「分散型エネルギーシステム」の開発 「省エネルギーで快適な暮らし」の 実現に向けて	
Close up 2	13
「品質」を支える人材の育成 国内外の従業員に アイシンのものづくりを伝承	
業績報告	15
財務ハイライト	15
製品分野別の概況	15
所在地別の概況	17
E 環境的側面の報告 Environment	19
マネジメントメッセージ	19
環境取り組みプラン	19
環境マネジメント	21
低炭素社会の構築	22
循環型社会の構築	25
自然共生社会の構築	27
環境コミュニケーション	28
資源投入量と排出量(2010年度)	29
環境会計	29
第三者意見	30
S 社会的側面の報告 Society	31
マネジメントメッセージ	31
お客様とともに	31
従業員とともに	35
サプライヤーとともに	39
株主・投資家とともに	40
地域社会とともに	41
G ガバナンス報告 Governance	45
コーポレート・ガバナンス	45
CSR マネジメント	46
コンプライアンス	47
情報セキュリティ	48

報告にあたって

アイシンでは、ステークホルダーの皆様にご企業グループの事業活動とCSR活動について情報を開示し、積極的にコミュニケーションを図るために、下記の冊子・ウェブサイトにおいて考え方や活動、パフォーマンスデータを報告しています。

- 「アイシンレポート2011ダイジェスト版」
特に社会の関心が高いと考えられる事柄のみを報告
- 「アイシンレポート2011」
事業・CSRに関する考え方・活動の全体を報告
- ウェブサイト「CSR情報」「株主・投資家情報」
「アイシンレポート2011」の内容に加えて詳細なCSRパフォーマンスデータや財務情報も報告

対象期間

2010年度(2010年4月1日から2011年3月31日)を中心に、一部それ以外の期間の活動についても記載しています。

対象組織

原則としてアイシングループ(アイシン精機株式会社および連結子会社)を対象としています。

本レポート内の表記については下記の通りです。

表記	対象会社
「アイシン精機」	アイシン精機株式会社
「アイシン」	アイシン精機株式会社と連結子会社
「グループ主要12社」	アイシン精機株式会社 アイシン高丘株式会社 アイシン化工株式会社 アイシン・エイ・ダブリュ株式会社 アイシン・イーアイ株式会社 株式会社アドヴィックス アイシン軽金属株式会社 アイシン開発株式会社 アイシン機工株式会社 アイシン辰栄株式会社 アイシン・エイ・ダブリュ工業株式会社 豊生プレーキ工業株式会社

参考にしたガイドライン

- ・環境省「環境報告ガイドライン(2007年版)」
- ・GRI(Global Reporting Initiative)
「サステナビリティ・リポーティング・ガイドライン2006」

公開時期

- ・2011年7月(前回:2010年7月)
- ※ 一部2011年8月公開

この度の東日本大震災により被災されましたすべての方々に心よりお見舞い申し上げます。当企業グループでは、被災地の復興に向けてグループ一丸となることができる限りの支援を続けていきたいと考えております。

創業以来、アイシンは「品質至上」を基本とし、お客様に喜ばれる魅力ある商品づくりに取り組んでまいりました。自動車業界の発展とともに、事業をグローバルに拡大し、現在では、世界屈指の総合自動車部品メーカーとしての地位を確立しております。また、住生活関連分野やエネルギー関連分野でも事業を展開し、豊かな暮らしを支える多彩な商品を提供しております。

2010年1月には、CSRに関する考え方、取り組み方針をグループ全体で共有することが必要と考え「アイシングループ企業行動憲章」を制定しました。同憲章のもと、全世界に展開するグループ会社と共に、より良いクルマ社会づくり、生活環境づくりに貢献してまいります。さらに、2011年度には、新興国市場の急成長、自動車技術の革新など、企業を取り巻く環境が大きく変化する中、これに的確に対応するため、2020年に向けたアイシングループビジョンの検討を進めております。

私たちアイシンは、お客様や地域社会の皆様をはじめとする世界中のステークホルダーと共に、豊かな明日を拓く企業グループを目指します。皆様には、変わらぬご支援とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



K. Toyoda 取締役会長
豊田 幹司郎

F. Fujimori 取締役社長
藤森 文雄

経営理念

「品質至上」を基本に――

- ① **新しい価値の創造**
未来に目を向けた研究と開発に努め、お客様に喜んでいただける新しい価値の提供を通して、豊かな社会づくりに貢献する
- ② **国際協調と競争の中での着実な成長**
世界各国、各地域に根付いた企業活動を通して、世界市場で着実な成長と発展を目指す
- ③ **社会・自然との共生**
社会・自然との調和を大切にし、良き企業市民としての信頼に応える
- ④ **個人の創造性・自発性の尊重**
個人の創造性・自発性を尊重し、活力にあふれ、常に進歩を目指す企業風土をつくる

アイシングループビジョン 2015

共創 [create with]

グループの技術を結集し、アイシンならではの高性能システム商品を実現することで、社会の発展に貢献する新たな価値を創ります。

共生 [be with]

絶えず信頼される行動に徹し、お客様や地域社会、あるいは自然と共に生きることを目指します。

共感 [harmonize with]

世界の市場や地域に根付いた事業を展開し、国際社会と共に歩む真のグローバル企業を目指します。

アイシングループ企業行動憲章(抜粋)

安全・品質 / コンプライアンス /
情報開示・コミュニケーション / 人権・労働 /
環境 / 企業市民活動 / 経営トップの姿勢

グループの総合力を発揮して グローバルに事業を展開しています。

アイシングループ: 165社(20カ国)

アイシン精機、アイシン高丘、アイシン化工、
アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン・エーアイ、
アドヴィックスほか

売上高 2兆2,574億円(連結)

従業員数 74,671人(連結)

アイシン精機



グループの中心企業として幅広く事業を展開



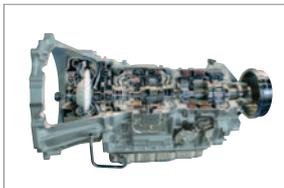
パワースライドアシストシステム



エンジン冷却用電動ウォーターポンプ



電動アクティブスタビライザー
アクチュエーター



小型トラック・バス用FR6速
オートマチックトランスミッション

ボディ
関連



ブレーキ及び
シャーシ関連



アイシン高丘



鑄造部品のトップメーカー



ブレーキディスクローター



SUS鑄鉄複合エキゾーストマニホールド



北米

グループ会社
32社
売上高
2,477億円



アドヴィックス



先進のブレーキシステムサプライヤー



ブレーキブースター & マスターシリンダー



ESC モジュール

アイシン・エーアイ



MTのトップメーカー



前輪駆動車用6速MT

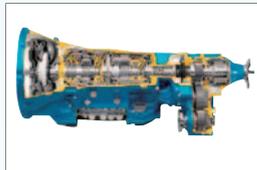


後輪駆動車用6速MT

アイシン・エイ・ダブリュ



ATとカーナビのトップメーカー



AWD 8速AT



カーナビゲーションシステム

アイシン化工



化成品・摩擦材・樹脂部品の専門メーカー



塗布型制振材



セグメント湿式摩擦材

情報
関連他



住生活関連機器
その他



ドライブ
トレイン関連



エンジン
関連

欧州

グループ会社
10社
売上高
1,673億円



アジア他

グループ会社
48社
売上高
2,576億円

日本

グループ会社
75社
売上高
1兆5,846億円



揺るぎない成長を目指して――

環境負荷低減に貢献する商品の開発を推進するとともに、新興国市場での事業基盤の強化に取り組んでいます。



取締役社長
藤森 文雄

2010年度の概況

ハイブリッド車向け商品やアジア市場での販売が好調

ハイブリッド車用のトランスミッション関連商品やエンジン冷却用電動ポンプなどが好調に推移したことに加え、アジアを中心に海外での販売が伸長し、売上高は前年度に比べ9.9%増の2兆2,574億円となりました。

利益については、生産調整のほか原材料価格の変動や為替による影響があったものの、売上高の増加や経営全般にわたる収益体質の強化を進めた結果、営業利益は1,372億円、当期純利益は696億円と、ともに2期連続の増益となりました。

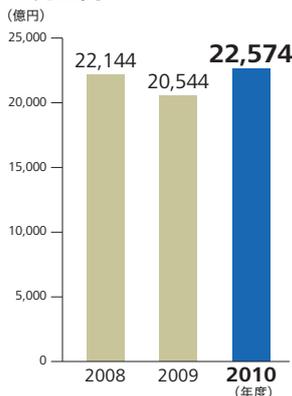
注力テーマ

成長力を確保するために「変化を読み、先手を打ち、全速力でやり抜く」

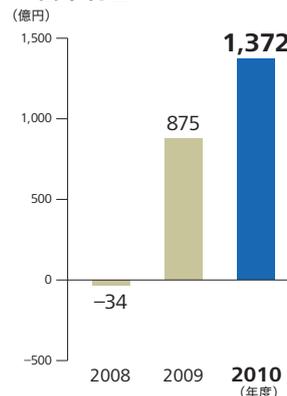
アイシンでは、次の時代を切り拓いていくために、「変化を読み、先手を打ち、全速力でやり抜く」ことを基本姿勢として成長力の確保に努めています。

特に、「新興国での事業基盤強化」「商品競争力の確保」「グローバルな視点でのマネジメント・人材育成の強化」にグループの総力を挙げて取り組んでいます。

売上高



営業利益



環境対応車でアイシンがリードする

アイシンは、多彩な商品を開発し、ハイブリッド車の普及に貢献してきました。中でも、ドライブトレイン関連の商品はアイシンが世界をリードすべき領域であると考えています。他社に先駆けて発売したモーター内蔵のハイブリッド車用トランスミッションは、現在、搭載車種が飛躍的に広がっています。また、「回生協調ブレーキシステム」や「エンジン冷却用電動ウォーターポンプ」は、多くのハイブリッド車の機能にとって不可欠な商品となっています。

今後は、小型車から大型車、商用車など幅広く対応した駆動システムを開発し、ラインナップの拡大を図ります。また、放熱制御や排気熱利用などの技術を用いて

車両全体の熱利用の最適化を図る「ヒートマネジメント」関連の部品についても、アイシンらしい創造性に富んだ新商品を開発していきます。

ガソリン車の低燃費を追求

ハイブリッド車や電気自動車が環境対応車として注目を浴びる一方で、従来のガソリン車の燃費を向上させていくこともCO₂排出量を削減していくためには、重要なことと考えています。

そこでアイシンでは、「駆動力の伝達効率の向上」「エンジンの高効率化」「車両の軽量化」などに貢献し、燃費向上につながる商品の開発にも力を入れています。

ハイブリッド車に不可欠な主な商品



エンジン冷却用電動ウォーターポンプ
従来の機械式と異なり、エンジンの冷却を最適に近い状態にコントロールし、燃費向上に貢献



ハイブリッドトランスミッション
モーターを内蔵したハイブリッド自動車専用のトランスミッション

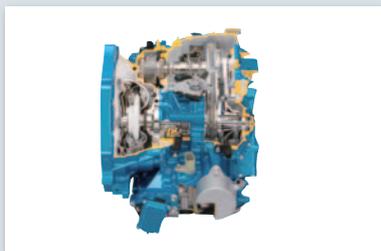


回生協調ブレーキシステム
モーターの回転から生まれるエネルギーを電気エネルギーとして回収



トヨタ プリウス

従来のガソリン車の燃費向上に貢献する商品



小容量CVT
駆動力の伝達効率向上に貢献



可変吸気インテークマニホールド
エンジンの高効率化に貢献



軽量シートアジャスター
車両の軽量化に貢献

加速するグローバル競争を勝ち抜くために

新興国では、自動車市場が拡大の一途をたどっており、これらの市場で拓販できるかが、今後の成長を大きく左右することになると考え、中国をはじめ、ブラジル、インド、アセアン諸国などへの拓販に取り組んでいます。

特に急激な成長を続ける中国では、市場拡大への対応を急ピッチで進めています。生産・供給体制を強化したほか、現地カーメーカーとの新規取引に向け、積極的な活動を進めています。

また、今後新興国で販売を拡大していくためには、

地域特性を取り込んだ商品開発が不可欠であることから、低コストを前提とした品質のつくりこみにグループの総力を挙げて取り組んでいきます。

多岐にわたる事業展開が強み

自動車分野以外にも、エネルギー分野や住生活分野など幅広く事業を展開しているのがアイシンの特長です。エネルギー分野においては、従来から省エネルギー性に優れたガスヒートポンプエアコンや、ガスで発電し、排熱を有効利用するガスコージェネレーションシステムを販売してきました。

新興国市場での事業基盤強化

- 1 唐山愛信化工有限公司
[2010年7月設立] ディスクブレーキパッド生産
- 2 AW(蘇州)自動車部品有限公司
[2011年4月設立] オートマチックトランスミッション生産
- 3 愛徳克斯(福州)自動車部品有限公司
[2011年9月設立予定] 制御ブレーキ商品の生産・販売
- 4 愛徳克斯(常州)管理有限公司
[2011年6月設立] ブレーキ部品の統括・開発
- 5 愛信精機(中国)投資有限公司
[2011年7月設立] 地域統括・開発・営業
- 6 AISIN THAI AUTOMOTIVE CASTING CO., LTD.
[2010年11月生産開始] エンジン部品生産
- 7 TOYOTA BOSHOKU DO BRASIL LTDA.
[2010年8月出資決定] シート部品生産
- 8 AISIN DO BRASIL COM. E IND. LTDA. 新工場
[2012年生産開始予定] シート部品、ドアフレームなどのプレス品生産



- 新設の生産拠点
- 新設の地域統括・開発拠点

TOPICS | 上海モーターショーに出展

2011年4月に中国・上海で開催された展示会に日本と中国のグループ会社で出展しました。



TOPICS | 広州汽車との取引を開始

2010年度、新たに広州汽車の乗用車「Trumpchi」にアイシン・エイ・ダブリュの「高容量FF5速AT」が採用されました。



高容量FF5速AT

今後も、自動車分野、エネルギー分野、住生活分野のそれぞれで培ってきた技術とノウハウをフル活用し、アイシンならではの「技術と生活者の声との融合」を活かせる分野として、エネルギー事業に積極的に取り組んでいきます。さらに、エネルギーの有効利用が叫ばれる中、エネルギーと情報の流れをライフスタイルに合わせて最適化した「スマートハウス」に貢献する商品の開発にも取り組んでいきます。



2011年5月に発売した家庭用ガスエンジンコージェネレーションシステム「コレモ」の出荷式

CSR活動の推進

品質向上を追求し、お客様第一の観点から「100%良品の商品」を目指す

アイシンでは、経営理念において、「品質向上」を経営の基本とすることを定め、お客様第一の観点から「100%良品の商品」の提供を目指す「A-CF(アイシン・カスタマーファースト)活動」に取り組んでいます。

製造工程における「不良ゼロ」ラインを増やす「パーフェクトラインづくり」も、この活動の一例です。2010年度には、これらの活動に対して(財)日本科学技術連盟から「品質革新賞」をいただきました。徹底的な現場目線での改善活動と、グローバルな人材育成の面でも優れた効果を上げている点が評価されたものです。



(財)日本科学技術連盟から「品質革新賞」を受賞

社会から信頼され、社会と共に発展する企業グループであり続けるために

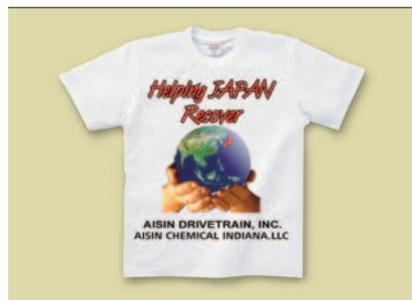
アイシンでは、「環境」「青少年の育成」「まちづくり」をテーマに積極的に企業市民活動を展開しています。

このたびの東日本大震災の被災地においても、支援物資や義援金を提供するとともに、津波被害で操業不能となった鉄工所に従業員を派遣して機械整備を行うなどの支援をしました。役員や従業員からの募金活動も、国内外の拠点で活発に行われており、アイシングループを挙げて被災地の復興を支援していこうという意識がさらに強まっています。

アイシンは、社会から信頼され、社会と共に発展する企業グループであり続けるために、これからもこうした活動に積極的に取り組んでいきます。



従業員による募金(中国のグループ会社唐山愛信齒輪有限責任公司)



T-シャツを製作・販売し、売上を義援金として寄付(米国のグループ会社AISIN DRIVETRAIN, INCとAISIN CHEMICAL INDIANA, LLC)

株主の皆様をはじめとするステークホルダーの皆様におかれましては、引き続き変わらぬご支援を賜りますようお願い申し上げます。

2011年7月

取締役社長 **藤森文雄**

Close up

「分散型エネルギーシステム」の開発

「省エネルギーで快適な暮らし」の実現に向けて

アイシン精機は環境問題に早くから向き合い、環境と調和する暮らしの実現を目指してエネルギー事業を推進してきました。省電力で経済性・環境性に優れたガスヒートポンプエアコン(GHP)や、分散型エネルギーシステムの一つであるコージェネレーションシステムなどを開発・提供することで、「省エネルギーで快適な暮らし」に対する社会のニーズに応えています。

アイシン精機のエネルギー関連機器開発の歩み

1987～

業務用ガスヒートポンプ
エアコン(GHP)



2002～

業務用ガス
コージェネレーションシステム



2011～

家庭用ガス
コージェネレーションシステム



将来

家庭用燃料電池
コージェネレーションシステム



業務用ガスヒートポンプエアコン

夏場の電力不足解消に向けて開発に着手

近年、ますます深刻化する地球温暖化を背景に、CO₂排出量の抑制につながる省エネルギー機器への注目が高まっています。アイシン精機は、1980年代

初頭から、ガスエンジンを使用し、省エネルギー・CO₂排出量削減を可能とする業務用空調機器の開発に取り組んできました。

背景にあったのは、2011年の今まさに日本社会が直面している状況と同じ、「夏場の電力不足」という課題



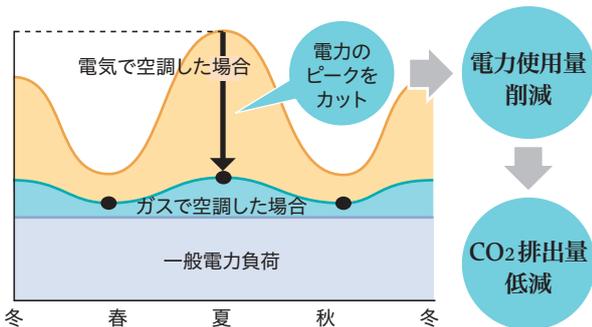
ビルの屋上に
設置されたGHP

です。第一次オイルショックから立ち直り、戦後最大の不況から本格的な回復を遂げた1970年代後半、記録的な猛暑によって家庭用エアコンの年間販売台数が300万台を突破。急騰した夏場の電力需要に対して、供給余力が底をつくという非常事態が発生しました。

これを機に、ガスを使用した冷房技術の研究・開発が国の「重要技術補助事業」に指定されることになり、当時スターリングエンジン※の技術開発を進めていたアイシン精機は、そのエンジン技術を活かし、ガス会社と共同で業務用ガスヒートポンプエアコン(GHP)の開発に着手。1987年、7.5馬力クラスのGHPを発売し、市場に参入しました。

以来、社会のニーズに合わせて、高効率、小型・軽量化を目指した商品開発を進めています。2台の室外ユニットを連結する「まとマルチ」、発電機を搭載した「ハイパワーマルチ」など、さまざまなGHPを累計14万台販売し、多くの学校やオフィス、店舗などで

◆ GHPによる電力消費量・CO₂の排出削減イメージ



使用されています。最新のEシリーズは、ガスエンジン、コンプレッサー、熱交換器などの主要部品を最適設計することで、さらなる高効率を実現するとともに、非常用エレベーターでの搬入が可能な小型タイプも品揃えしています。

※ スターリングエンジン：密閉したシリンダーの外側から熱(高温・低温)を加え、空気の膨張・収縮(圧力変化)を利用してピストンを動かすエンジン。

業務用ガスコージェネレーションシステム

電気と熱を使う場所で作る「分散型」のエネルギーシステム

アイシン精機では、ガスを燃料とし、環境負荷低減に貢献するエネルギー機器として、GHPだけでなく、ガスエンジンで発電し、その際に発生した熱を給湯や暖房に活用するガスコージェネレーションシステムも提供しています。これは、「電気」と「熱」という2種類のエネルギーを、それらが使用される場所で作る「分散型」のエネルギーシステムの一つです。アイシン精機では、2002年にまず6kWの業務用タイプを発売しました。

大規模発電所でつくられる商用電力の場合、発電する場所と使用する場所が離れているため、発電時に発生する熱は利用することができません。発電した電力を各家庭や事業所など電気を使う場所へ送る際の送電ロスも含めると、一次エネルギーの活用率は約40%となります。一方、ガスコージェネレーションシステムの場合には、発電時の熱を給湯や暖房に利用できるため、



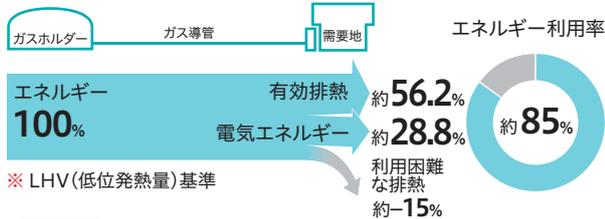
商業施設に設置された業務用ガスコージェネレーションシステム



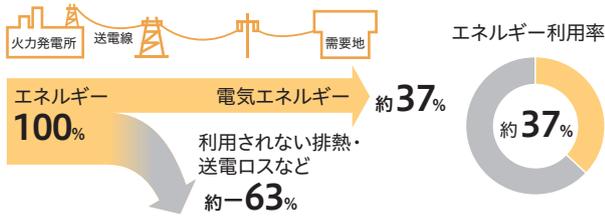
電力と熱利用を含めた総合エネルギー効率は70～90%と、エネルギーを有効活用できるのです。

分散型発電と集中発電の総合エネルギー効率比較

当社製6kWガスコージェネレーションシステム



火力発電



家庭用ガスコージェネレーションシステム

寒冷地のライフスタイルに合わせた「コレモ」

近年では、家庭用のガスコージェネレーションシステムの開発にも注力しています。2011年5月、その第一弾となる「コレモ」を北海道ガスの供給エリアで発売しました。省エネ型給湯機「エコジョーズ※」と組み合わせて使用するシステムで、「発電」「暖房」「給湯」を効率的に行います。

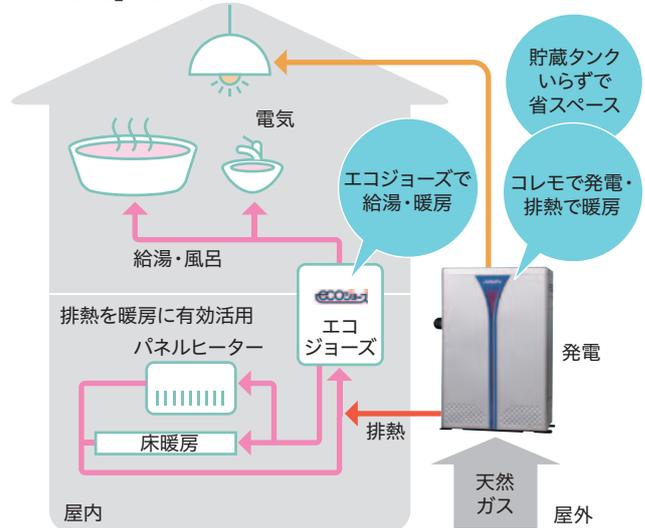
暖房を入れると自動的に「コレモ」のガスエンジン

が作動し、家庭内で使用する電力量にあわせて最大1.5kWまでの電気を発電します。その際に発生する熱は、即時に「エコジョーズ」を介して暖房用温水の加熱に利用するので、大幅な省エネルギーと光熱費削減を実現します。

一般的に、ガスコージェネレーションシステムの発電時には電力よりも多くの熱エネルギーが生じます。したがって、総合エネルギー効率を向上させるには、発生した熱をどれだけ使い切ることができるかが鍵となります。そこで、床暖房やパネルヒーターなどによる暖房需要が高く、家庭での年間エネルギー消費の約半分を暖房が占める地域、北海道に着目しました。

※ エコジョーズは東京ガス(株)の登録商標です。

「コレモ」のしくみ



屋外に設置されるコレモは極寒地域でも運転に支障がないことを実証済み。10年の耐久性を保証しています。



北海道の暮らしに合わせたシステムとして「コレモ」を開発することで、よりエネルギーを無駄なく活用していただける商品を実現できました。

「コレモ」&「エコジョーズ」は、従来のガス給湯暖房機と比べ、年間のCO₂排出量を約1トン削減しています。また熱利用を暖房に特化し、発生と同時に使うことで、貯湯タンクを不要とし、省スペースを図っています。

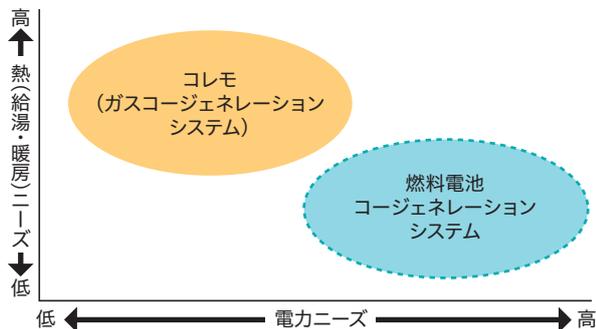
家庭用燃料電池コージェネレーションシステム

燃料電池コージェネレーションシステムの開発も推進

1990年代後半からは、次世代エネルギーとして期待が高まりつつあった「燃料電池」にも着目し、基礎技術開発を進めてきました。

燃料電池を用いたコージェネレーションシステムでは、ガスから取り出した水素と、酸素を化学反応させて電気と熱をつくるため、CO₂の排出量を大幅に

生活スタイルに応じて選択可能



VOICE

「コレモ」開発者から

「100%省エネ」を実感できる商品を目指しました。

アイシン精機
エネルギー技術部 コージェネグループ 神谷 洋

「コレモ」の開発にあたり一貫してこだわったのは、「お客様に100%満足していただけるシステムをつくること」です。「家族構成や生活スタイルにかかわらず、すべてのお客様に省エネを実感してもらうにはどうしたらよいか?」と突き詰めて考えた結果、「暖房専用」、「使う時に使う分だけを発電する」というコンセプトにたどり着き、寒冷地・北海道向けのシステムとして開発することを決めました。

試作機ができてからは、北海道で複数の一般家庭にモニターとなっていただき、実際に使用してもらいました。そこで寄せられたさまざまなご意見をもとに、一つずつ改良を重ね、

削減することが可能です。アイシン精機では、トヨタ自動車(株)、大阪ガス(株)、京セラ(株)と共同で家庭用の燃料電池コージェネレーションシステムを開発し、2009年から大規模実証試験に試験機を提供しつつ、2012年の商品化を目指しています。

燃料電池コージェネレーションシステムは、ガスエンジンのものに比べて発電量が多いので電力需要が高い家庭での使用に適しています。一方、ガスコージェネレーションシステムは、熱エネルギーを多く発生させるので、熱需要が高い家庭での使用に適しています。したがって、両システムを手がけるアイシン精機では、各家庭でのエネルギー需要に合わせた適切な商品の提供が可能となります。

震災後の日本社会でますます高まる省エネニーズに応えるために

この度の大震災によって、エネルギーの有効利用に対する社会のニーズは、ますます高まっています。アイシン精機は今後も、自動車技術で培った技術力と、これまでのエネルギー事業の取り組みを活かしてエネルギーの有効利用を考え、将来的には、コージェネレーションシステムを核に、家全体でのエネルギー利用の最適化を提案していきます。



システムの制御、粉雪対策など、あらゆる面で北海道の暮らしにフィットする商品を完成させることができました。モニターの方から「確かに電気代が下がった」「雪をかぶりながら一生懸命動いているコレモが愛らしい」という喜びの声をいただいたときのうれしさは忘れることができません。

今後も、さまざまな地域で、より多くのお客様に喜びを感じていただける商品の開発に取り組んでいきます。



モニター家庭に設置した試作機の台所リモコン。発電量やCO₂の削減効果、経済効果も見ることができる。



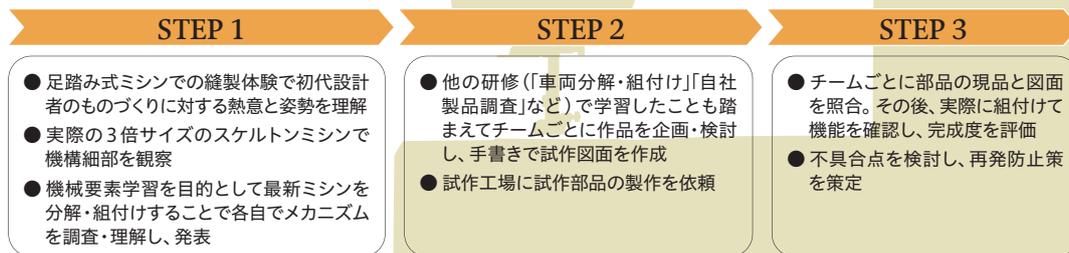
「品質」を支える人材の育成

最新ミシンを分解し、
メカニズムを調査

国内外の従業員に アイシンのものづくりを伝承

アイシンは、事業の基本を「ものづくりを通じて社会に貢献すること」であると考えています。そこで、ものづくりに携わる人材の育成に注力し、確かな品質の商品を提供できるようアイシンのものづくりに関する考え方や方法、実践的な技能を教えています。

技術系スタッフ職「設計実務演習」の流れ



技術系スタッフ職新入社員研修

「ミシン」を通じて開発・設計の基本を学ぶ

2010年度、アイシン精機では、技術系スタッフ職の新入社員研修において、アイシンの原点であり、ものづくりの基本が詰まった「ミシン」を通して機械要素と機構を学ぶ「設計実務演習」を開始しました。研修生自身がアイデア企画から作品製作・評価までを実際に体験し、ものづくりの基本を学んでいます。

この演習では、まずアイシン精機の初代の足踏み式ミシンで縫製を体験し、そのからくりを調査することから始め、続いて一般的なミシンの3倍サイズのスケルトンミシンを使って縫い機構を学びます。次に、3人1組となって、最新型のミシンを一つひとつの部品にまで分解し、もう一度組み立て直すことでミシンの機械要素と構造を理解します。その後、CADではなく手書きで部品の図面を作成し、社内の試作工場に試作を



足踏み式ミシンでの縫製を体験し、設計者の熱意と姿勢を理解

実際のミシンの3倍サイズのスケルトンミシン



VOICE

講師から



大切なのは「チームワーク」。

アイシン精機 技術管理部 安藤 幸

知識や技能の習得はもちろん、チームワークの重要性を体感してもらうことが大切だと考えています。チーム一丸となって取り組めば、必ず良いものができます。

指導にあたっては、「自ら考え一人ひとりの強みを発揮する」「一人だけで悩まない」「困っている仲間がいたら助ける」を念頭に、全員参加で進めるよう心がけています。また、職場に入ってからのことを考え、指導の合間に自らの失敗談なども話し、「気持ちの切り替え方」や「知らないことは恥じるな。知らないままですごすな」などを声かけし、仕事に立ち向かう姿勢を意識して研修を進めています。





依頼します。2ヵ月後、発注した部品が届く頃にもう一度集まり、自分たちで設計した部品を実際に組み上げ、その作品の機能を確認し、出来ばえを評価します。不具合があった場合は、その再発防止策を考えます。こうした一連のステップを実際に体験してみることで、ものづくりの基本を習得します。

また、この演習のもう一つの特徴は、講師補佐に、新任課長格を起用している点にあります。講師が指導の合間に現場の様子や失敗談などを新入社員に伝えることで、仕事に対する姿勢を学んでもらっています。

日本の企業内訓練校での海外従業員の教育

ものづくりを支える現地人リーダーを育成

日本企業のものづくりに関する大きな環境変化の一つに、海外生産の拡大が挙げられます。アイシンでも、1973年にメキシコに生産拠点を開設して以来、年々、海外生産拠点が増え、現在、その数は60拠点に上ります。

アイシンでは、これら海外生産拠点で、ものづくりのリーダーとなって活躍できる現地人材の育成に力を入れており、2001年度から企業内訓練校「アイシン高等学園」に海外拠点の従業員を受け入れ、1年間にわたってさまざまな実践的スキルを教えています。

カリキュラムの中でグループで課題に取り組む場合は、

日本と海外の研修生が入り混じるようにグループを組み、国籍や文化の違いを超えたチームワークを身につけられるようにしています。2010年度には、中国、ブラジル、タイ、トルコ、インドネシア、台湾からの研修生計20人を教育しました。

これまでにこの研修を終えて帰国した海外従業員の中には、すでに製造課長や部長となって現地のものづくりを支えている者もいます。今後もこの研修を継続し、アイシンのものづくりを世界中に根づかせていきます。

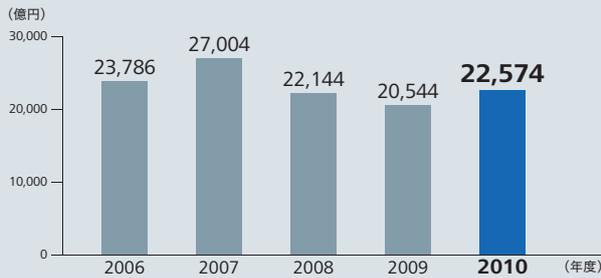


実践的なスキルを学ぶ
海外研修生

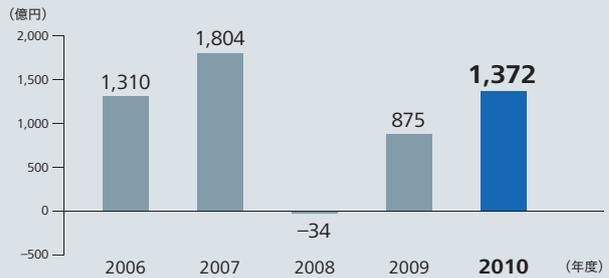


財務ハイライト

売上高



営業利益



製品分野別の概況 (★: 2010年度の新商品)

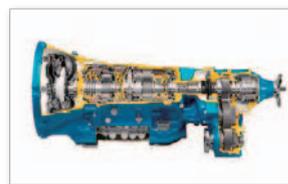


ドライブトレイン関連

軽自動車から小型・中型トラックおよびバス、産業車両用まで業界一の品揃えを誇ります。オートマチックトランスミッション(AT)、マニュアルトランスミッション(MT)ともに世界トップクラスのシェアを維持しています。

〈主な拡販・新商品〉

- ハイブリッドトランスミッション
- 高効率小容量CVT
- レクサスLFA用6速シーケンシャルMT ★

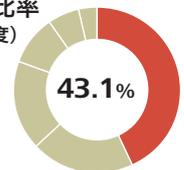


AWD 8速AT

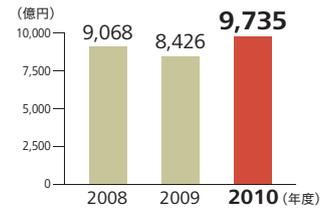


前輪駆動車用6速MT

売上高比率 (2010年度)



売上高



ブレーキ及びシャシー関連

ブレーキシステムやその構成部品、快適な操縦性と走りを実現するステアリングやサスペンションシステムなど、あらゆる角度から安全性と機能性を追求した商品を提供しています。

〈主な拡販・新商品〉

- 回生協調ブレーキシステム
- エレクトロニクススタビリティコントロール(ESC)

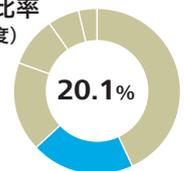


ESCモジュール

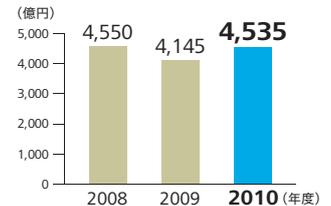


電動アクティブスタビライザーアクチュエーター

売上高比率 (2010年度)



売上高



ボディ関連

デザイン性に優れ、安全・快適・便利といった機能性を備えた外装・内装商品を提供しています。

〈主な拡販・新商品〉

- ダイクエンチ工法ルーフリーンフォースメント*
 - 大開口パノラマ電動ロールサンシェード ★
- * 加工直前に鋼材を加熱しておき、プレス時に急冷却する工法。薄い鋼板で強度を確保でき、部品の軽量化に貢献する。

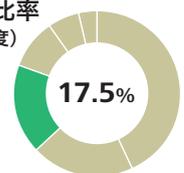


パワースライドドアシステム

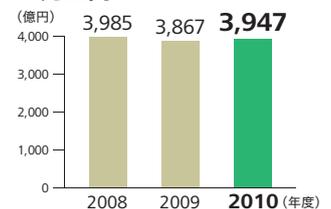


サンルーフ

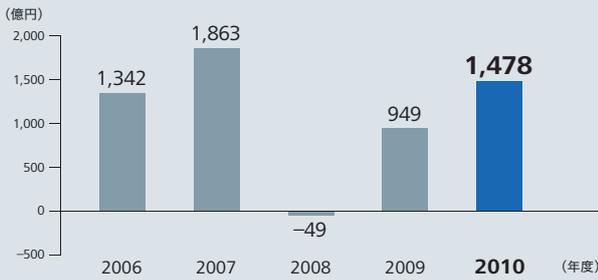
売上高比率 (2010年度)



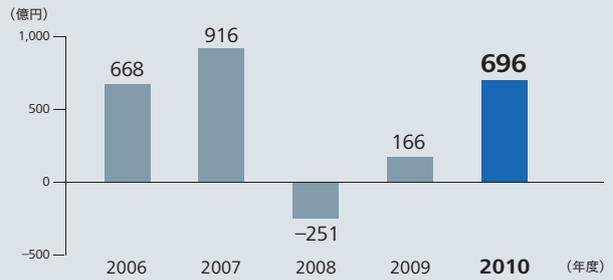
売上高



◉ 経常利益



◉ 当期純利益



エンジン関連

エンジン周りの機能部品や鋳造部品を幅広く手がけ、軽量化や、排出ガスのクリーン化・省燃費に貢献する商品を提供しています。

〈主な拡販・新商品〉

- インバーター冷却用電動ウォーターポンプ
- (EV用)DC/DCコンバーターハウジング★

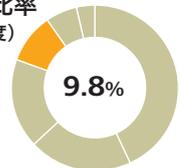


ウォーターポンプ

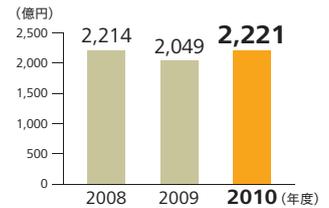


可変バルブタイミング (VVT)

◉ 売上高比率 (2010年度)



◉ 売上高



情報関連他

カーナビゲーションシステムや、画像処理技術を活かした駐車支援システムなどを提供し、安全・快適なカーライフをサポート。カーナビゲーションシステムは、世界トップクラスのシェアを誇っています。

〈主な拡販・新商品〉

- イージーセット機能付きインテリジェントパーキングアシスト★
- スマートフォン向けナビアプリケーション「NAVIelite」★

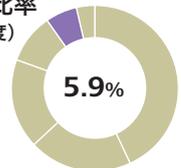


カーナビゲーションシステム

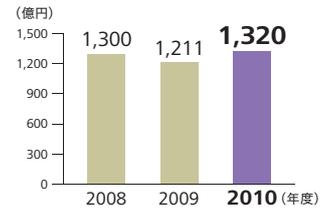


インテリジェントパーキングアシスト

◉ 売上高比率 (2010年度)



◉ 売上高



住生活関連機器 その他

自動車部品で培った技術を活かし、暮らしに身近な商品や、省エネルギー・温暖化防止に貢献する商品を提供しています。

〈主な拡販・新商品〉

- 家庭用ガスエンジンコージェネレーションシステム「コレモ」★
- ASLEEP「J」コンセプトシリーズ
新型コイルスプリングマットレス★

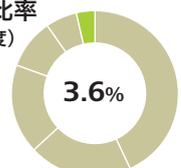


ベッド・寝装品

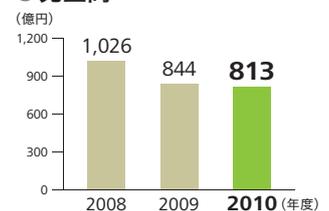


ガスヒートポンプエアコン (GHP)

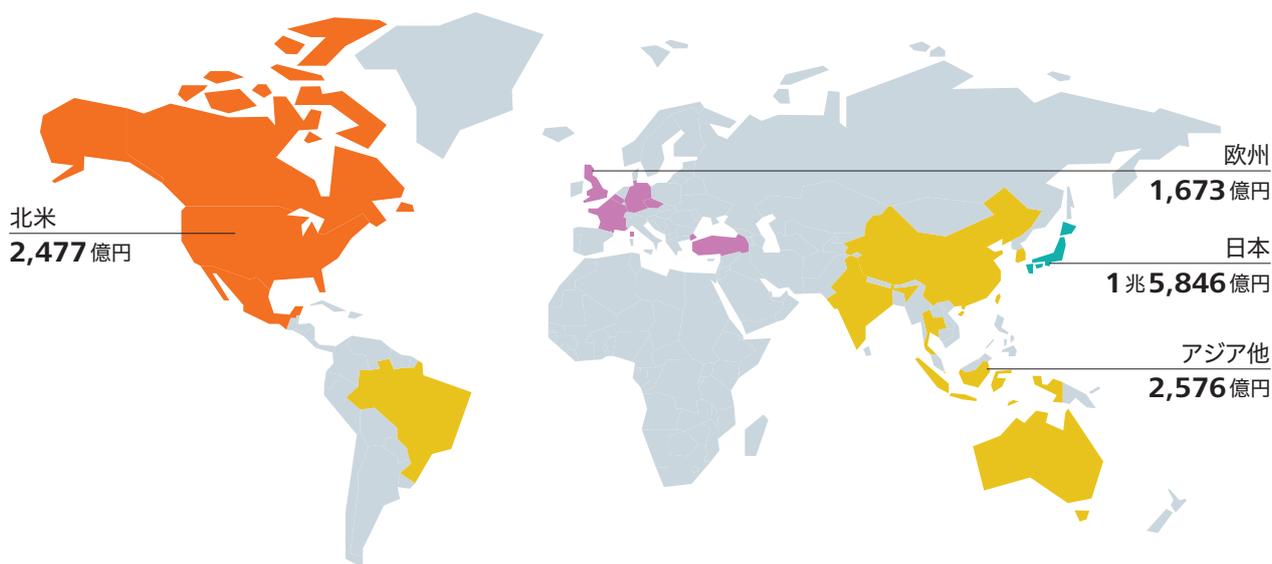
◉ 売上高比率 (2010年度)



◉ 売上高



所在地別の概況

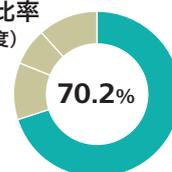


日本

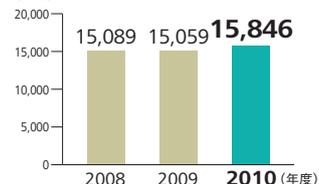
年度末に一部の工場において、震災に伴う得意先の稼働状況に応じた生産調整がありましたが、トランスミッション関連製品やエンジン冷却用電動ポンプをはじめとするハイブリッド車向け製品などが好調に推移したことにより、売上高は前年度の1兆5,059億円に比べ5.2%増の1兆5,846億円となりました。

営業利益は、売上高の増加に加え、企業体質改善活動の成果や減価償却費の減少などにより、909億円(前年度は営業利益637億円)となりました。

売上高比率
(2010年度)



売上高
(億円)



北米

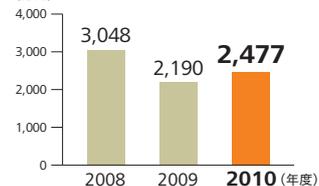
為替の変動が影響したものの、得意先自動車メーカーの生産台数増加などにより、売上高は前年度の2,190億円に比べ13.1%増の2,477億円となりました。

営業利益は、売上高の増加に加え、企業体質改善活動の成果や減価償却費の減少などにより、59億円(前年度は営業損失28億円)となりました。

売上高比率
(2010年度)



売上高
(億円)



世界自動車部品メーカー連結売上高ランキング

自動車部品メーカーとして世界第4位にランキングされています。

世界自動車部品メーカー2010年連結売上高ランキング(上位10社)

順位	社名	売上(自動車部品)(百万ドル)	前年順位
第1位	ロバート・ボッシュ(ドイツ)	\$ 34,565	第2位
第2位	デンソー(日本)	32,850	第1位
第3位	コンチネンタル(ドイツ)	24,819	第4位
第4位	アイシン精機(日本)	24,613	第3位
第5位	マグナ・インターナショナル(カナダ)	23,600	第5位
第6位	フォーレシア(フランス)	18,220	第7位
第7位	ジョンソンコントロール(アメリカ)	16,600	第8位
第8位	ZFフリードリヒスハーフェン(ドイツ)	15,748	第10位
第9位	LG化学(韓国)	15,500	第6位
第10位	現代モータース(韓国)	14,433	第12位

出典: Automotive News 社「世界自動車部品メーカー 2010年(2010年1月~12月)連結売上高ランキング」

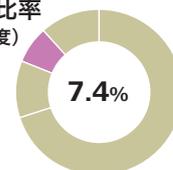


欧州

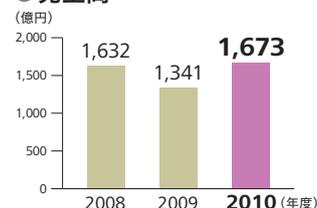
為替の変動が影響したものの、オートマチックトランスミッションの拡販などにより、売上高は前年度の1,341億円に比べ24.8%増の1,673億円となりました。

営業利益は、売上高の増加に加え、企業体質改善活動の成果や減価償却費の減少などにより、29億円(前年度は営業利益13億円)となりました。

売上高比率 (2010年度)



売上高

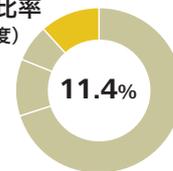


アジア他

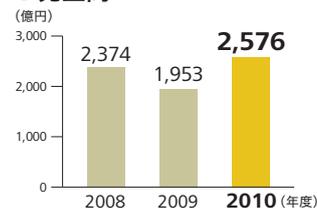
得意先自動車メーカーの生産台数増加などにより、売上高は前年度の1,953億円に比べ31.9%増の2,576億円となりました。

営業利益は、売上高の増加に加え、企業体質改善活動の成果などにより、384億円(前年度は営業利益268億円)となりました。

売上高比率 (2010年度)



売上高



環境的側面の報告

Environment

マネジメントメッセージ

アイシン連結環境委員会 委員長 取締役副社長 新井 益治

原点に立ち戻り持続可能な循環型社会を目指します

世界をみれば資源・エネルギー価格の高騰やレアアース問題などが顕在化する中で、3月に発生した東日本大震災により、エネルギー政策および温暖化防止戦略の見直しが迫られています。地球規模の環境問題を解決するためには、現実起こっている問題を直視し、あらためて原点に立ち戻り、実直に対応することが重要と考えています。

将来のため、あるべき社会の実現に向けて行動します

また、2011年は、電力の供給体制の脆弱性を私たちが現実として知る年になったと言えます。エネルギーのリスクや効率を追求しようとした場合、「地産地消」を進めるべきで、分散型の発電機やコージェネレーションシステム、ガス空調のニーズも拡大しています。エコカーなどに必要不可欠な省エネ製品の研究開発・商品化、圧倒的な生産性向上による省エネ型設備での製造を行う中で、アイシンとして産業の発展と人びとの暮らしに貢献していきたいと考えています。

グループの力を結束して環境問題への取り組みを強化します

私たちは、環境活動は全世界のグループ会社が一つの方向性を持って取り組むことが重要と捉え、2011年4月、グループ会社が一体で取り組む「第5次アイシン連結環境取り組みプラン」を初めて策定しました。今後も、地域社会を含めてすべてのステークホルダーの皆様により高い信頼を得るために法令順守に留まらず、本業であるモノづくりを通じて持続可能な社会の発展にグループの総力を挙げて取り組んでいきます。



環境取り組みプラン

第4次環境取り組みプランの総括

アイシンは、経営理念の中に掲げる「社会・自然との共生」を実現していくために、2006年2月に、2006年度から2010年度までの環境行動の指針・計画である「第4次環境取り組みプラン」を策定し、目標達成に向けて取り組んできました。

活動の結果、「生産CO₂売上高当り排出量」「排出物売上高当り排出量」などすべての目標項目を達成しました。

新たな環境取り組みプランを策定

2011年4月には、人類と地球環境が共存する持続可能な社会の実現に向けて、2011年度から2015年度までの計画として「第5次アイシン連結環境取り組みプラン」を策定しました。

「低炭素社会の構築」「循環型社会の構築」「自然共生社会の構築」「全テーマ共通の基盤活動」という4つの環境軸を掲げ、アイシンの事業活動(開発・設計、

生産、物流、販売など)と地域共生、マネジメント、コミュニケーションの分野ごとに、重点取り組み項目と具体的な実施事項・目標を策定し、総合的なマネジメントを推進していきます。また、環境活動は、日本国内に留まらず、海外においては、各拠点での環境委員会を通じてグローバル活動へと拡大していきます。

さらに、新規および強化する項目として、「グローバル環境マネジメント体制の強化」「製品のエコ認定基準の策定による開発・販売の促進」「環境マネジメントの技術・ノウハウの外部発信による普及拡大」「資源の循環利用に貢献する新ビジネスの拡大」にも取り組み、自社でつくりあげた技術やノウハウを社会へ発信していきます。

○「第5次アイシン連結環境取り組みプラン」シンボル概念図



⑤ 第5次アイシン連結 環境取り組みプラン

アイシンは、グループ連携のもと確かなものづくりを通じて地球環境への取り組みを進め、社会と調和した成長と発展を目指します。

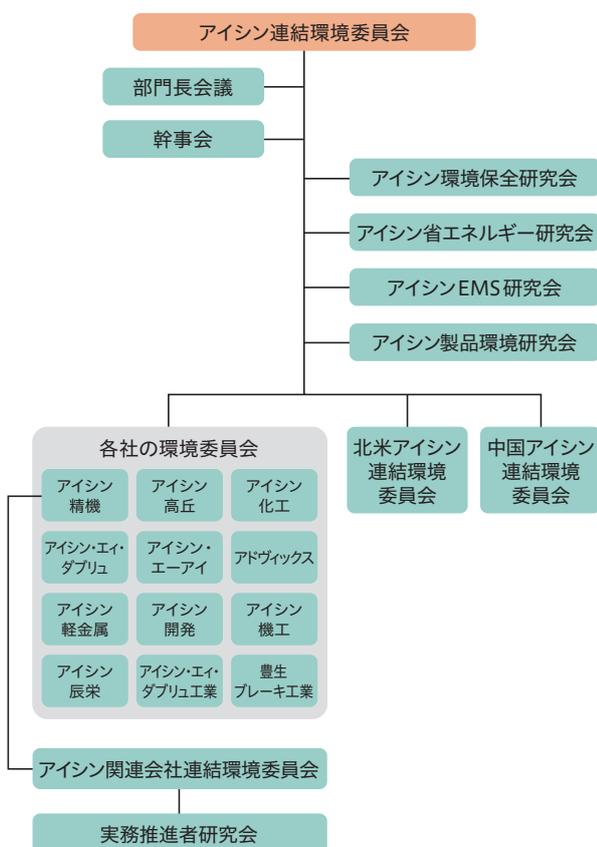
環境軸	機能軸	取り組み項目	実施事項・目標																								
低炭素社会の構築	開発・設計	1) 低炭素社会を志向した製品の開発・設計の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●【自動車】燃費改善に資する自動車部品の設計・開発の推進 ●【自動車】次世代自動車向け部品の開発 ●【その他】低炭素型の環境配慮製品の開発 ●【全製品】全製品LCAの実施とグループ展開の推進 																								
	生産	2) 事業所における温室効果ガス削減の徹底とグローバル展開	<ul style="list-style-type: none"> ●生産プロセスの改善や自然エネルギー導入による温室効果ガス削減の徹底 ●日常業務中での省エネ活動の徹底 ●日本の成功事例の海外拠点への展開 ●温室効果ガス削減目標の組織範囲の拡大 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>地域</th> <th>項目</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">生産</td> <td>アイシングループ</td> <td>売上高当り排出量</td> <td>2007年度比12%減</td> </tr> <tr> <td>国内連結</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外連結</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="3">物流</td> <td>アイシングループ</td> <td>売上高当り排出量</td> <td>2008年度比13%減</td> </tr> <tr> <td>国内連結</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外連結</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		地域	項目	目標	生産	アイシングループ	売上高当り排出量	2007年度比12%減	国内連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する		海外連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する		物流	アイシングループ	売上高当り排出量	2008年度比13%減	国内連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する		海外連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する	
		地域	項目	目標																							
生産	アイシングループ	売上高当り排出量	2007年度比12%減																								
	国内連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																									
	海外連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																									
物流	アイシングループ	売上高当り排出量	2008年度比13%減																								
	国内連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																									
	海外連結	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																									
物流	3) 物流活動における温室効果ガス削減の徹底とグローバル展開	<ul style="list-style-type: none"> ●共同輸送、積載率向上などによる総走行距離の低減 ●モーダルシフトの推進 ●低燃費車導入やエコドライブによる輸送車両の燃費向上 																									
循環型社会の構築	開発・設計	4) 循環型社会を志向した製品の開発・設計の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●LCAによるライフサイクル全体での資源循環への寄与度の見える化 ●見える化に基づく資源循環型の開発・設計の推進 ●易リサイクル設計や小型化による最終処分量低減 ●生産時に不良品の発生しにくい設計の実施 ●資源枯渇影響を低減する設計の実施 																								
	生産/物流	5) 事業所・物流における資源有効利用の徹底とグローバル展開	<ul style="list-style-type: none"> ●【生産】不良発生量の低減、廃棄物の3Rの徹底と海外拠点への展開 ●【生産】地域性を加味した水使用量の削減 ●【生産】廃棄物削減目標の組織範囲の拡大 ●【物流】梱包資材の削減 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>項目</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">生産</td> <td>アイシングループ</td> <td>廃棄物</td> <td>売上高当り排出量</td> <td>2007年度比17%減</td> </tr> <tr> <td>国内連結</td> <td>廃棄物</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外連結</td> <td>廃棄物</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		地域	対象	項目	目標	生産	アイシングループ	廃棄物	売上高当り排出量	2007年度比17%減	国内連結	廃棄物	実績把握をしたのち目標管理へ移行する		海外連結	廃棄物	実績把握をしたのち目標管理へ移行する							
		地域	対象	項目	目標																						
生産	アイシングループ	廃棄物	売上高当り排出量	2007年度比17%減																							
	国内連結	廃棄物	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																								
	海外連結	廃棄物	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																								
販売後	6) 資源の循環利用に貢献する新ビジネスの拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●自動車部品のリビルト事業の推進 ●廃棄物のリサイクル化事業の推進 																									
自然共生社会の構築	開発・設計	7) 製品含有の環境負荷物質の管理強化	<ul style="list-style-type: none"> ●REACH等、製品含有の環境負荷物質に関する法規制の順守 ●製品に含有される環境負荷物質の削減推進 																								
	生産	8) 環境リスク0(ゼロ)化・環境負荷物質の排出低減の徹底とグローバル展開	<ul style="list-style-type: none"> ●全世界の拠点における環境異常の未然防止活動の推進 ●生産活動における環境負荷物質の排出低減活動の徹底 <table border="1"> <thead> <tr> <th></th> <th>地域</th> <th>対象</th> <th>項目</th> <th>目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">生産</td> <td>アイシングループ</td> <td>VOC</td> <td>売上高当り排出量</td> <td>2007年度比31%減</td> </tr> <tr> <td>国内連結</td> <td>VOC</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> <tr> <td>海外連結</td> <td>VOC</td> <td>実績把握をしたのち目標管理へ移行する</td> <td></td> </tr> </tbody> </table>		地域	対象	項目	目標	生産	アイシングループ	VOC	売上高当り排出量	2007年度比31%減	国内連結	VOC	実績把握をしたのち目標管理へ移行する		海外連結	VOC	実績把握をしたのち目標管理へ移行する							
		地域	対象	項目	目標																						
生産	アイシングループ	VOC	売上高当り排出量	2007年度比31%減																							
	国内連結	VOC	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																								
	海外連結	VOC	実績把握をしたのち目標管理へ移行する																								
地域共生	9) 生物多様性に寄与する地域共生活動のグループ横断展開	<ul style="list-style-type: none"> ●地域生態系の生物多様性への影響のモニタリングと公開 ●生物多様性を保全するための地域の在来生物の保護や植林活動のグループ全体での実施 																									
全テーマ共通の基盤活動	マネジメント系	10) グローバル環境マネジメント体制の強化	<ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメントシステムの海外拠点への拡大 ●グローバル各地域の地球環境委員会活動の活性化 ●国際規格の動向を踏まえた新たなEMSの構築と運用推進 																								
		11) サプライヤーと連携した環境活動の推進	<ul style="list-style-type: none"> ●グリーン調達ガイドラインを活用してのグループ全体でのグリーン調達の着実な推進 ●インセンティブや取り組み支援を通じてのサプライヤーの環境取り組みのレベルアップの支援 																								
		12) 環境教育活動の充実と推進	<ul style="list-style-type: none"> ●グローバルな環境マネジメント推進のためのスキルの高い人材(スーパー環境人材)の育成 ●グループ一体となった体系的な環境教育の継続 																								
		13) 環境マネジメントの技術・ノウハウの外部発信による普及拡大	<ul style="list-style-type: none"> ●環境マネジメント・ノウハウの外部発信の強化とビジネス化の検討 																								
	コミュニケーション系	14) 地域に根ざした環境社会貢献活動の充実とグローバル展開	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会と協調した環境社会貢献活動の推進 ●グローバル各拠点への地域社会と協調した環境社会貢献活動の展開 																								
	15) 積極的な環境コミュニケーションの実施	<ul style="list-style-type: none"> ●地域社会との双方向コミュニケーションの深化 ●CSRレポートによる環境情報の公開 																									

環境マネジメント

組織体制

アイシンでは、環境管理最高責任者(アイシン精機の副社長)を委員長とし、グループ主要12社の環境担当役員を委員とする「アイシン連結環境委員会」を設置し、同委員会が、グループ全体の方針や戦略を策定し、連結環境活動をマネジメントしています。

アイシン連結環境マネジメント体制



ISO14001の認証取得状況

アイシンでは、国際的な環境マネジメントシステムの規格であるISO14001の認証取得を推進しています。2010年度末時点でアイシン連結生産会社の94%、84社が認証取得を完了しています。

北米連結活動～3社で埋立廃棄物ゼロを達成

北米では、2010年9月に、現地のグループ各社12社から31人が参加して北米アイシン連結環境委員会を開催。各社の環境活動事例の発表や、温室効果ガス規制に関する技術講演を実施しました。

また、2010年度には、従来からの廃棄物削減活動

の成果として、イリノイ州マリオン地区の3社が埋立廃棄物ゼロを達成しました。



北米アイシン連結環境委員会メンバー

中国連結活動～排水の処理工程を合理化

2009年度に、急速な経済成長に伴って環境問題が深刻化している中国において、現地のグループ会社18社が参加する「中国アイシン連結環境委員会」を設置しました。2010年度に開催した委員会では、各社が自主的に取り組んでいる優れた活動について、他社でも実行できるよう情報を共有しました。

グループ会社のアイシン精機佛山自動車部品有限会社では、排水処理工程の合理化に取り組みました。工場で使用している作動油を、水と分離しやすく排水COD※の低下が期待できる合成油に切り替えるなどの改善を実施し、これまではCODを基準値以下に抑えるために8回必要だった循環処理回数を1回で済ませることができるようになりました。

※ COD (Chemical Oxygen Demand): 化学的酸素要求量。水中の被酸化性物質質量を、それらを酸化するために必要とする酸素量で示したもので、代表的な水質の指標の一つであり、酸素消費量とも呼ばれる。

アイシン高丘が国内外全拠点を対象とするアセスメントを実施

アイシン高丘では、2010年度から国内外全拠点を対象とする環境アセスメントを開始しました。各拠点に環境部門担当者が出向き、順法状況および現場環境保全状況を点検し、指導を実施しました。特に、海外拠点では現地スタッフとのディスカッションを通じて現地ならではの課題や悩み事を抽出し、解決の方向性をアドバイスしました。

アイシン高丘では、各拠点への環境アセスメントを今後も継続し、全拠点での環境保全活動の活性化を図ります。



環境アセスメントのスタッフミーティング

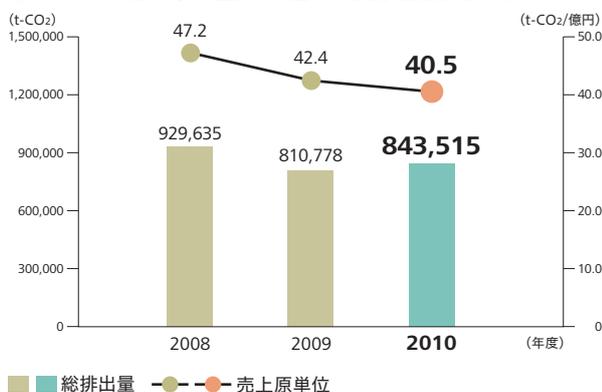
低炭素社会の構築

生産による温室効果ガス削減

2010年度は、機械加工ラインやアルミ溶解炉、熱処理炉のエアークレック対策、設備非稼働時停止の徹底など、省エネを推進しました。その結果、売上高1億円当り原単位でのCO₂排出量は前年度から4.4%減の40.5トンとなりました。

今後、売上高1億円当り原単位でのCO₂排出量を2015年度までに2007年度比で12%削減することを目指します。

CO₂ 総排出量/売上原単位 (国内主要生産会社10社※1)



CO₂以外の温室効果ガスの排出 (国内主要生産会社10社)

(t-CO ₂)	2008年度	2009年度	2010年度
HFCs※2	531	429	14
SF ₆ ※3	82,455	3,585	8,365

※1 国内主要生産会社10社：アイシン精機、アイシン高丘、アイシン化工、アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン軽金属、アイシン機工、アイシン・エア、アイシン辰栄、アイシン・エイ・ダブリュ工業、豊生プレーキ工業。

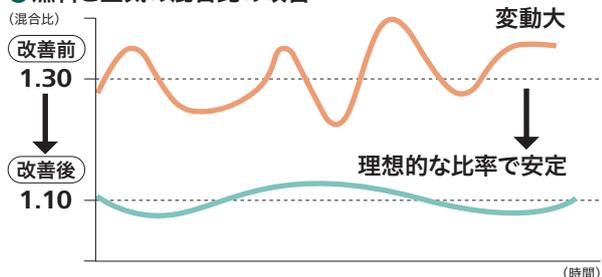
※2 HFCs (Hydrofluorocarbons)：ハイドロフルオロカーボン。温暖化効果がCO₂の140～14,800倍とされる温室効果ガス。

※3 SF₆ (Sulfur hexafluoride)：六ふっ化硫黄。温暖化効果がCO₂の23,900倍とされる温室効果ガス。

アルミ溶解炉のCO₂削減 (アイシン精機)

アルミ溶解炉5機のバーナーについて、燃料ガスと空気の混合比率を理想的な比率に自動制御するシ

燃料と空気の混合比の改善



テムを導入しました。

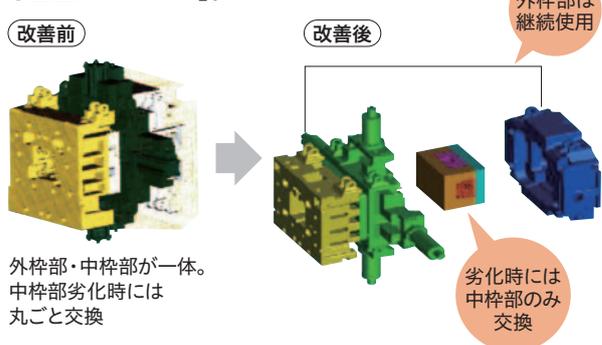
これによって、燃料ガスの使用量を低減し、年間1,125トンのCO₂削減を実現しました。

金型の材料低減によるCO₂削減 (アイシン精機)

金型の外枠部は、直接材料に触れる中枠部に比べるとそれほど劣化は速くありません。しかし、従来の金型は、中枠部と外枠部が一体化していたため、中枠部が劣化した時に、傷んでいない外枠も同時に取り替える必要がありました。

そこで、金型を「カセット化」することで外枠と中枠を別体化させ、劣化時は中枠のみを交換し、外枠をそのまま継続使用できるようにしました。これによって、工場で外枠の製造に使うエネルギーを低減し、CO₂排出量を年間292トン削減することができました。

金型の「カセット」化



エアブロー集約によるCO₂削減 (アイシン・エア)

切削工程では、切粉を除去するためのエアブローに多くのエネルギーを使用していました。

そこで、エアブローの配管を、切粉の飛散方向を一定方向にまとめることにより、従来の5本から1本に集約しました。その結果、エア使用量は従来の1/4以下になり、エネルギー使用に伴うCO₂排出量を年間1.32トン削減できました。

ブロー配管



コンプレッサーを省エネルギータイプに更新 (豊生ブレーキ工業)

従来から、生産工程でのCO₂排出量を低減するために、変圧器や、ボイラーの切り替えを進めてきました。

2010年度には、コンプレッサーを省エネルギー性に優れたインバーター式に更新し、CO₂排出量低減を図っています。

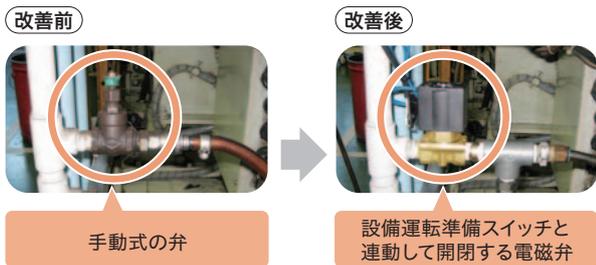


新たに導入したインバーター式コンプレッサー

エアバルブの連動停止によるCO₂削減 (アイシン化工)

設備の運転準備スイッチの起動とエアバルブの開閉を連動させることで、設備不稼働時には自動的にエアーの供給を停止するようにしました。

これによって、エアーを圧縮するコンプレッサーのエネルギー使用量を低減し、CO₂排出量を年間6トン削減しました。



工場環境配慮設計 (アイシン化工)

2010年10月、環境に配慮した設計を施した「パッド第3工場」の稼働を開始しました。

同工場は、もっとも空調を省エネに運転するために、ダクトの更新期間を標準化したり、ムダを省いた適正な照度設計が行われている点を評価され、「CASBEE あいち※」においてAランク(5段階中で上位より2ランク目)に認定されました。特に、「温暖化防止への貢献」の項目に関しては最上位のSランクとなっています。

※ CASBEEあいち: 愛知県建築物総合環境性能評価システム。住宅建築分野における環境共生の取り組みを推進するため、建築物の環境性能を総合的に評価するもの。



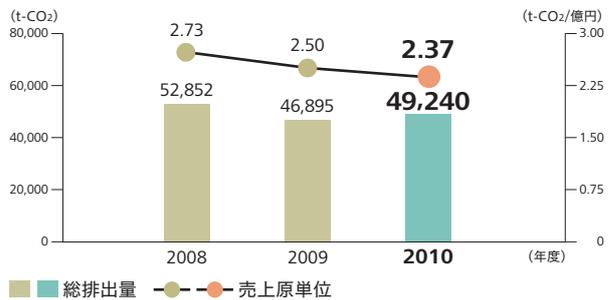
パッド第3工場
所在地: 愛知県豊田市
建物: 2階建て
床面積: 8,586m²
生産内容:
自動車用ディスク
ブレーキパッド

物流によるCO₂排出量の削減

2010年度は、トラック輸送の配車便数の削減や輸送距離の短縮などに取り組みました。また、一部トラック輸送を鉄道輸送に切り替えました。これらの結果、売上高1億円当り原単位でのCO₂排出量は、前年度から5%減の2.37トンとなりました。

今後、売上高1億円当り原単位でのCO₂排出量を2015年度までに2008年度比で13%削減することを目指します。

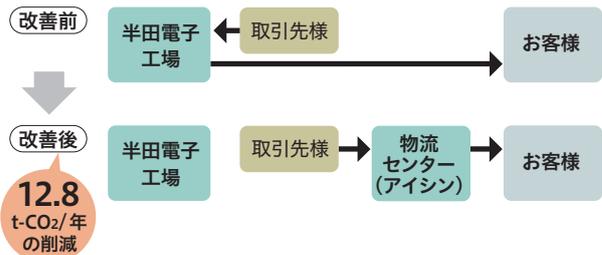
◎輸送に伴うCO₂総排出量/売上原単位 (国内主要生産会社10社)



ルート変更による輸送動線の短縮(アイシン精機)

取引先様からの納入をお客様に隣接する当社の物流センターに変更し、輸送距離の短縮と物流効率の向上を図りました。

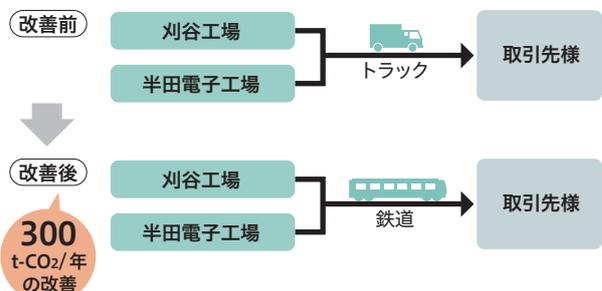
◎動線短縮によるCO₂排出量削減



モーダルシフトの推進 (アイシン精機)

愛知県の各工場から九州地方の取引先様への輸送について見直しを実施し、一部をトラック便から鉄道に切り替えました。

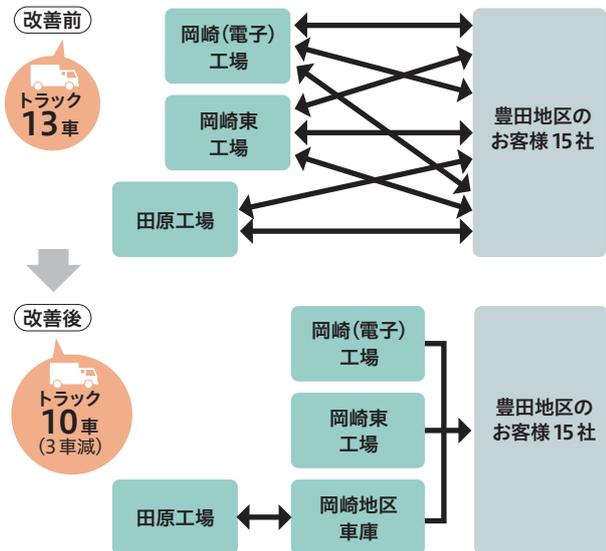
◎輸送方法変更によるCO₂排出量削減



トラック便数削減によるCO₂削減 (アイシン・エイ・ダブリュ)

効率的な輸送を実現するために、荷量に応じた車格の設定や、混載による便数の削減などを進め、CO₂削減に努めています。

◎トラックの台数を削減した改善事例



製品の環境負荷低減

エコプロダクト認定制度を試行

アイシンでは、環境性能に優れたエコプロダクトの自社認定制度を策定しました。温暖化防止や省資源化への貢献度と、機能や性能などを数値化し、これらの数値が従来品から一定の割合以上に向上した製品を「アイシンエコプロダクト」として認定します。

2010年度には、住生活・エネルギー分野の2製品をエコプロダクトとして認定しました。2015年度までに段階的に、自動車関連部品を含む全製品に同制度を適用していく予定です。

◎製品環境ファクターによるエコプロダクト評価

$$\text{製品環境ファクター} = \frac{\text{評価対象製品の環境効率}}{\text{基準製品の環境効率}} = \text{製品価値の向上率} \times \text{環境性能及び負荷の改善率}$$



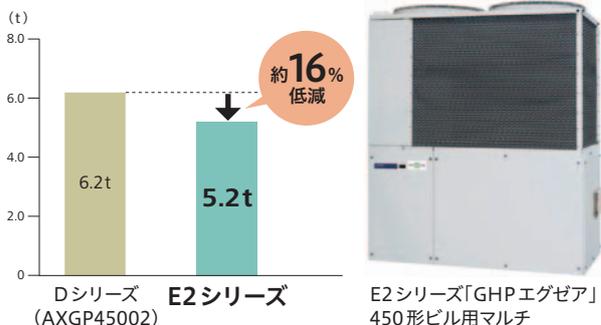
CO₂排出量を約16%削減したGHPを発売 (アイシン精機)

2011年7月、アイシン精機は東京ガス(株)、大阪ガス(株)、東邦ガス(株)と共同開発したガスヒートポンプエアコン(GHP※1)の新商品E2シリーズ「GHPエグゼア」を発売しました。

通年のエネルギー効率が(APF)2.28※2と高効率を実現しており、2007年発売のDシリーズと比べてCO₂排出量においては約16%低減※3しています。

- ※1 GHP(Gas Engine Driven Heat Pump) : ガスを燃料とするエンジンでコンプレッサーを駆動させて冷暖房を行うエアコン。
- ※2 JISB8627期間消費エネルギー量算出基準による。
- ※3 45kWビル用マルチタイプの場合。試算条件は下記を参照。

◎CO₂排出量比較



〈試算条件〉

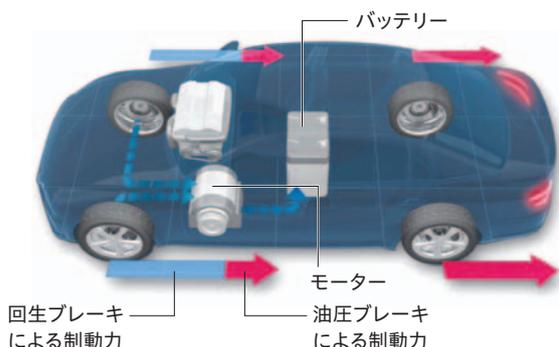
- ・機種: 450形ビル用マルチ
- ・年間効率: 定格効率と中間負荷効率の平均 (冷暖平均)
- ・消費電力は定格=中間と想定
- ・運転時間: 1000時間/年 (冷房 600時間、暖房 400時間)
- ・燃料: 都市ガス
- ・CO₂排出係数※: 電気 0.69 kg-CO₂/kWh 都市ガス 0.0509 kg-CO₂/MJ
- ※ 日本ガス協会 2010.8 「CO₂削減対策の評価に用いる電気のCO₂排出係数について」より

回生協調ブレーキシステムを販売(アドヴィックス)

アドヴィックスは、ハイブリッド車用の「回生協調ブレーキシステム」を販売しています。

制動時の油圧ブレーキと回生ブレーキのバランスを制御し、必要なブレーキ力を確保するとともに、エネルギー回収を最適化するシステムで、燃費向上に貢献します。

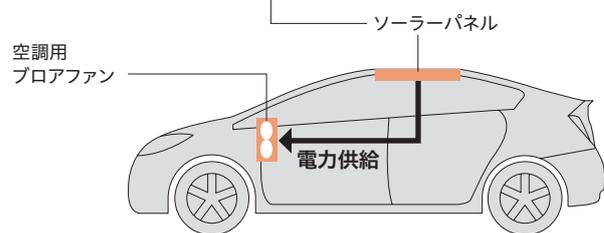
◎回生協調ブレーキシステムのしくみ



ソーラーパネルの電力で車室温度上昇を抑制

夏場の炎天下に長時間車を駐車した場合、車内温度はおよそ80℃近くまで上昇するといわれています。その緩和をするため、京セラ(株)とAGC旭硝子(株)が協同で開発したソーラーパネルを、トヨタ自動車(株)がプリウスのムーンルーフに採用し、より効率的に機能を発揮できるよう、京セラ(株)とAGC旭硝子(株)、アイシン精機の3社協同でソーラーパネルムーンルーフとして商品化しました。

ルーフに搭載されたソーラーパネルの発電電力を利用し、空調用ブロアファンを作動させて外気を取り込み、高温の空気を排出することで、車内温度の上昇を抑制します。従来のプリウスとの比較では、約10℃の温度低下効果があります。



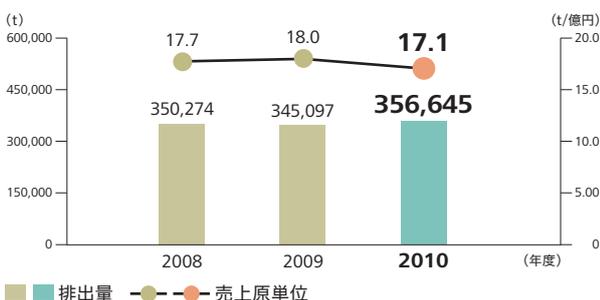
循環型社会の構築

廃棄物の管理・削減

アイシンでは、廃棄物の取り扱いにおいて順法性を確保するための管理を徹底するとともに、排出量の削減に取り組んでいます。

2010年度は、樹脂成形工程からの廃プラスチックの社内リユース拡大、アルミ溶解炉解体がれきの社内リサイクルなどを推進し、排出抑制に取り組みました。その結果、2010年度の売上高1億円当り原単位での排出量は、前年度から5%減の17.1トンとなりました。今後は、売上高1億円当り原単位での排出量を2015年度までに、2007年度比で17%削減することを目指します。

◎ 排出物排出量 / 売上原単位 (国内主要生産会社10社)



埋立廃棄物ゼロを達成(アイシン・エイ・ダブリュ工業)

分別の徹底や3R※活動によって産業廃棄物の低減を進め、2002年度には埋立廃棄物のゼロ化を早期に達成しました。

現在も、積極的に工場内で廃品を再生・再利用し、埋立廃棄物ゼロを維持しています。

※ 3R: Reduce(減量)、Reuse(再利用)、Recycle(再資源化・再利用)。

◎ リサイクル事例



廃磁石を観賞用化粧材として利用



廃レンガを再生し、弊社工場玄関部に施工



廃プラ・汚泥を熔融スラグ化し路盤材として利用



廃プラをRPF※に加工し、ボイラーのエネルギーとして利用

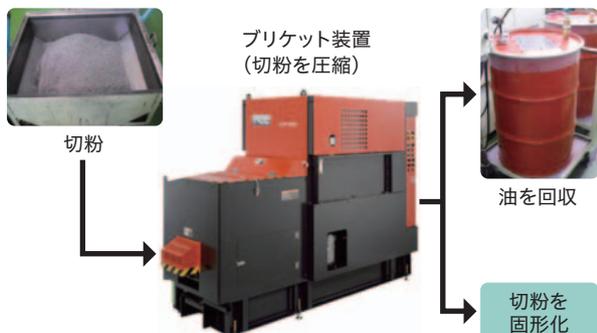
※ RPF(Refuse Paper & Plastic Fuel): 古紙及び廃プラスチックを主原料とする固化燃料

切削油を回収し、毎月3,200リットルをリサイクル(アイシン・エーアイ)

切削油を回収・再利用するしくみを構築しました。

切削装置から排出される切粉を圧縮し、そこから油を回収して不純物を除去した後に再利用しています。

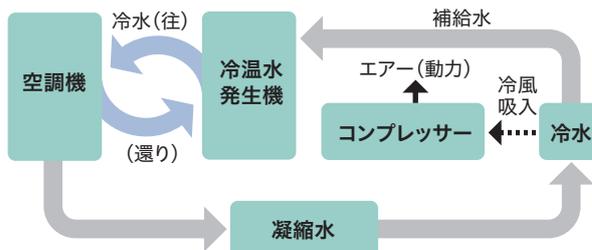
切削油の回収方法



空調機内に発生する凝縮水をリサイクル(アイシン機工)

工場の冷房時に、空調機内で発生する冷温の凝縮水を回収し、コンプレッサーの吸入空気の冷却や冷温水発生機の補給水として再利用するシステムを構築しました。コンプレッサーの圧縮効率が向上し、消費電力低減にも結びついています。

水リサイクルの流れ



FOCUS

スプリングマットレスのリサイクル体制を構築

アイシン精機は2010年度、スプリングマットレスのリサイクル体制の構築に取り組みました。

スプリングマットレスには、総重量の55~60%を占める鉄が含まれています。しかし、そのままの形では密度が低いのでシュレッダーマシンで破碎することができません。そのため、従来はマットレスに含まれる鉄を回収することができませんでした。

そこで、シュレッダーマシンで破碎できるようにマットレスをサイコロ状に圧縮する機械を開発し、さらに、自動車関連のリサイクル設備を持つ処理業者と協力して、年間300個のマットレスをリサイクルできる体制を整えました。



新たに開発、製作したマットレスの圧縮機

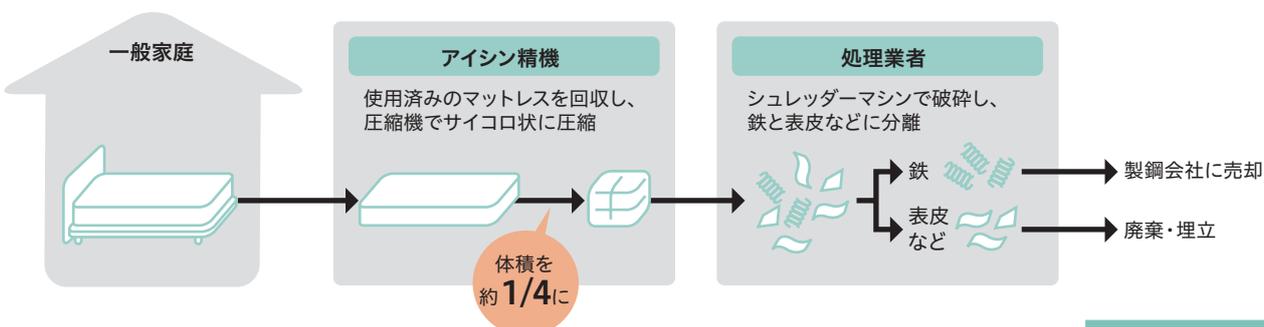


アイシン精機製スプリングマットレスを使用したベッド



圧縮されたマットレス

スプリングマットレスのリサイクル体制



自然共生社会の構築

水環境の保全

油漏れ事故と対策(アイシン精機)

工事業者の自動車に積まれていた燃料ポリタンクが転倒し、軽油が河川に流出しました。

発見後、関係官庁へ連絡するとともに、油膜の回収に努めました。環境への悪影響は極めて軽微でしたが、これを機に、他の工事業者などに対しても、ポリタンク輸送時の配慮事項などをまとめて通達するなど、再発防止策を講じました。

「E-Volante」システムの拡充(アイシン精機)

「E-Volante(イーボランチ)」と名付けた水質管理システムの構築に取り組んでいます。このシステムで、各拠点で計測した排水のPHなどのデータを集中的に管理し、リスク回避のための情報を各拠点に発信しています。2010年度は、新たに2工場、1試験場に導入しました。

地下水を定期的に監視(アイシン軽金属)

本社工場では、5カ所に観測用井戸を設置し、定期的に監視することで、万一の汚染に早期に対応できるようにしています。

化学物質の管理・削減

2010年度には、PRTR※1法の改正に対応するために、取引先様にご協力いただき、MSDS※2の最新版の入手と新規対象物質含有材料の情報収集を実施しました。収集した情報に基づいてMSDSを差し替え、法改正対応を完了しました。

REACH※3規制については、2011年の高懸念物質の届出に対応するために、取引先様にご協力いただき、製品中の高懸念物質含有材料の情報収集を実施しました。

※1 PRTR(Pollutant Release and Transfer Register)：PRTR制度化学物質の環境への排出量・移動量を把握し、都道府県經由で国(事業所管大臣)に届け出る制度。

※2 MSDS(Material Safety Data Sheet)：化学物質や化学物質が含まれる原材料などを安全に取り扱うために必要な情報を記載したものの。

※3 REACH(The Registration, Evaluation, Authorization & Restriction of Chemicals)：生産品・輸入品の全化学物質(1t/年以上)の「登録」「評価」「認可」「制限」に関するEU規制(2007年6月施行)。

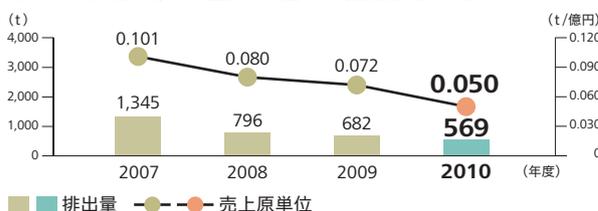
VOC※の排出量削減

車体部品の塗装や電子部品のコーティングに使用される溶剤などに含まれるVOCは大気を汚染する可能性があるため、アイシンでは、その排出量削減に取り組んでいます。2010年度は、シンナーのリサイクルや、塗料のハイソリッド化、VOC含有排出ガスのコージュネによる焼却などを実施しました。その結果、2010年度の排出量は、569tとなり、2003年度から83%削減を達成しました。

今後は、売上高1億円当り原単位での排出量を2015年度までに、2007年度比で31%削減することを目指します。

※ VOC(Volatile Organic Compounds)：揮発性有機化合物。

◎VOC排出量/売上原単位(国内生産会社10社)



生物多様性の保全

産業・暮らし・自然が共生できる場をつくるために

アイシンでは、「豊かな社会づくりを目指し、自然環境との調和を図る」との考えに基づいて、生物多様性の保全を目指しています。

その具体的な活動として、工場などを建設する際には、環境影響評価を実施し、在来生物の生態系を壊さないよう配慮するとともに、建設後も周辺の環境を定期的に調査し、生物多様性の状況を把握しています。さらに、一部工場の敷地内には、ビオトープを設置し、地域の動植物が健やかに生育できる環境を整備しています。

今後も、こうした「産業・暮らし・自然が共生できる場づくり」を推進していきます。

◎生物多様性に関する考え方



環境コミュニケーション

取引先様とともに

グリーン調達の実績の展開(アイシン精機)

取引先様と協力してグリーン調達に取り組んでいます。2009年度には、「アイシングループ調達ガイドライン」を発行し、1次取引先様の100%にあたる1,700社に配布しました。2010年度は、環境法規制動向に関する資料配信をはじめとしてさまざまな情報を開示し、コミュニケーションに努めました。

2010年度の主な取引先様とのコミュニケーション実績

- 環境法規制動向に関する情報配信(2010年5月、10月)
法規制の制定・改正や当社の対応状況について210社に情報を発信。
- 環境マネジメント点検(2010年8月)
ISO14001未取得の80社に対して3年間に一巡する点検計画を設定。チェックシートを作成して自主点検を依頼。必要に応じて現地現認指導を実施。
- 環境リスク点検(2010年8月)
環境リスクの高い設備・工程を有する150社に対して3年間に1巡する点検計画を策定。法令順守状況と設備・施設管理状況の自主点検を依頼。必要に応じて現地現認指導を実施。
- 化学物質登録システム説明会(2010年11月~12月)
GADSL※について説明し、当社の化学物質登録システムへの登録を依頼。同システムは2011年1月に運用を開始。
※ GADSL(Global Automotive Declarable Substance List):自動車業界で利用されている申告物質や禁止物質のリスト。

地域住民とともに

工場での説明会・懇談会の開催(アイシン精機)

工場での説明会・懇談会を積極的に開催して地域住民の方々への情報開示に努めています。

2010年度には、計6回開催しました。

連絡会を開催し、近況報告などを実施(豊生ブレーキ工業)

自治会の代表者や市議員の方々をお招きして連絡会を開催し、日ごろのご協力への御礼や会社の近況報告を実施しました。

自治会の代表者の方からは、同社工場の夜間照明によって道路が明るくなり、交通安全や防犯に効果があったことなどを評価いただきました。

岡崎東工場ビオトープで自然との共生(アイシン・エイ・ダブリュ)

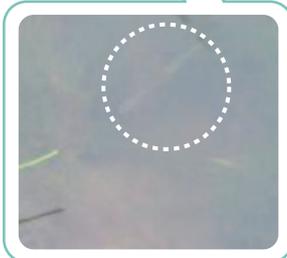
アイシン・エイ・ダブリュの東岡崎工場敷地内にあるビオトープは、排水処理場からの放流水が流れる小川を中心に地域の動植物が暮らす場となっています。



岡崎東ビオトープ



メダカ



カワムツ

「エコの森」活動の推進(アイシン・エイ・ダブリュ工業)

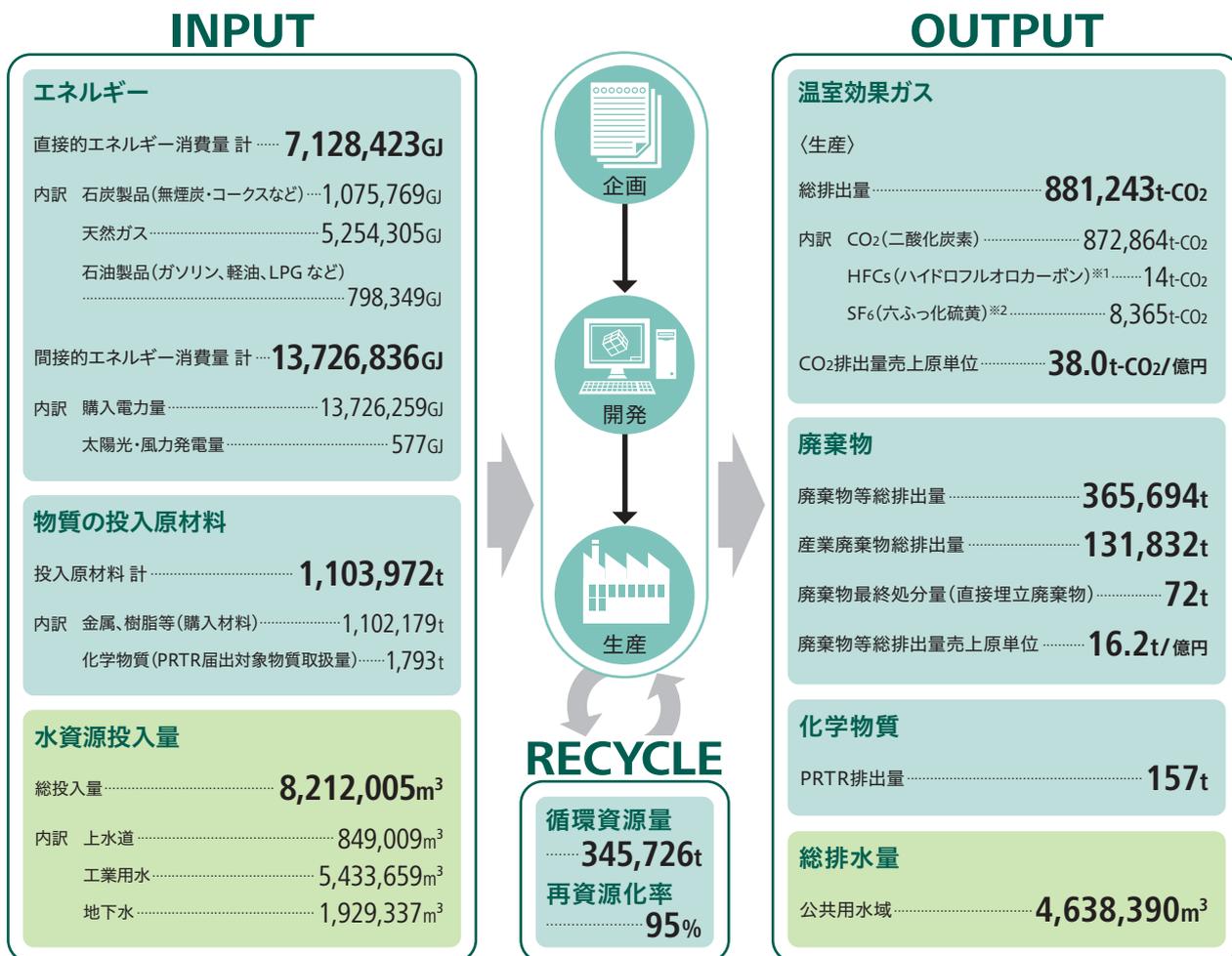
福井県南条郡南越前町の榎谷ダム上流緑地において、地域住民の方々とともに「エコの森」を育てる活動に取り組んでいます。

2010年5月には、第2回となる森林整備活動を実施し、従業員132人が植樹や下草刈りなどに取り組みました。



第2回森林整備活動

資源投入量と排出量(2010年度)



注) ■は国内主要生産会社10社の合計、その他は国内グループ会社23社の合計。

国内グループ会社23社: アイシン精機、アイシン高丘、アイシン化工、アイシン・エイ・ダブリュ、アイシン軽金属、アイシン開発、アイシン機工、アイシン・エーアイ、アイシン辰栄、アイシン・エイ・ダブリュ工業、豊生ブレーキ工業、アイシン東北、アイシン九州、埼玉工業、寿技研工業、愛知技研、アイシンメンテナンス、アイシンエンジニアリング、新三商事、光南工業、碧南運送、サンエツ運輸、山形クラッチ。

※1 HFCs(ハイドロフルオロカーボン): 温暖化効果がCO₂の140~14,800倍とされる温室効果ガス。

※2 SF₆(六ふっ化硫黄): 温暖化効果がCO₂の23,900倍とされる温室効果ガス。

環境会計

(億円)

	国内主要生産会社10社			国内グループ会社23社		
	2008年度	2009年度	2010年度	2008年度	2009年度	2010年度
事業エリア内コスト	107.4	76.7	68.1	114.6	82.1	74.3
管理活動コスト	8.3	7.2	7.8	9.0	8.7	9.4
上下流コスト	25.6	19.3	27.9	26.3	20.1	28.9
環境保全コスト	88.1	89.3	84.0	88.1	89.4	84.1
社会活動コスト	2.4	5.9	3.7	2.4	5.9	3.7
環境損傷対応コスト	1.5	0.7	0.7	1.5	0.7	0.7
合計	233.3	199.1	192.2	241.9	206.9	201.1
省エネルギーによる効果	7.3	9.7	8.2	7.5	9.9	8.4
資材低減による効果	2.2	2.5	1.5	2.3	2.6	1.6
環境保全効果	0.6	0.6	0.4	0.6	0.7	0.4
有価物売却金	79.7	35.1	44.1	81.8	36.1	45.7
合計	89.8	47.9	54.2	92.2	49.3	56.1

注) 環境省発行「環境会計ガイドライン2005年度版」に準拠

第三者意見

環境トップランナー企業への確実なステップアップを実感

2011年4月は、アイシングループ12社で取り組んでいる第5次アイシン連結環境取り組みプランの初年度である。東日本大震災という未曾有の国難の中で、これまで以上に厳しい課題を自らに課して、環境活動が始まっている。この厳しい社会環境の中で、アイシン精機がどんな気構えで環境課題に取り組んでいるのか、あらためて見てみたいと考え、1年ぶりに本社を訪問した。

共同館に見る環境配慮への取り組み

2010年5月に竣工した共同館は、社内の専門家も交え、社内の知恵を結集した、省エネ・省資源ビルであると聞いていたため、平素、業務用建物や生産工場の省エネコンサルティングに取り組んでいる筆者としては、訪問を楽しみにしていた。

既設の建物ではとうてい実現できない数々のエコ技術が導入されているだけでなく、運用面での環境配慮も行き届いている。エレベーターの運転台数を効率化するため、食堂を中間階の7階に設置したことも合理的な発想である。

環境部の説明では、これらにより、一般ビルに比べて年間CO₂排出量が53%も低減できるという。竣工して1年のため、実績データが集積されていないが、これからの日本の大規模建築物のモデルにもなり得るすぐれたエコビルであり、高く評価したい。

ビルの外周に出た時、南側の1階外に、すくすく育っているゴーヤの緑のカーテンがあった。日本的な風景に心がなごむ思いがした。

分析室こそ、アイシン精機の社会的責任の象徴

分析室を訪問したのは2年ぶりである。6工場の環境負荷情報を、リアルタイムで見ることができる最先端の監視測定システムが、順調に稼働している様子をつぶさに見ることができた。2011年中には8工場・2施設の情報を管理できるようになるという。

これだけの複雑なシステムを、たった4人の専門家で運用していることに、あらためて驚くとともに、昼夜を分かたぬスタッフの努力に頭の下がる思いがした。分析室のモットーは「環境のトップランナー」である。すでに、トヨタグループの主要各社の中では、文句なしにトップレベルであろう。

2020年には、主要12社の環境負荷をリアルタイムでコントロールできることを目指しているとのことだったが、管制と指令を的確に実施するために重要なのは、人間の判断力である、という責任者の言葉が強く印象に残った。一般には見えない部分だが、これこそがアイシンの企業力であり、CSR(企業の社会的責任)そのものを象徴していると思った。



株式会社日本環境取引機構 代表取締役
NGO グリーンエネルギー推進機構 常任理事
日本福祉大学 非常勤講師(環境経営)

向井 征二様

マネジメントメッセージ

経営企画・管理部門担当 取締役副社長 中村 俊一



ものづくりを通じた社会への貢献を目指して

アイシンでは、「ものづくりを通じて社会に貢献する」という創業以来の考え方にに基づき、お客様に喜ばれる魅力ある商品づくりに取り組むとともに、「品質至上」を経営理念の基本に据え、常に安心・安全な商品の提供に努めています。そして、こうした活動の担い手となる従業員の一人ひとりがいきいきと働き、持てる能力を十分に発揮できるよう、職場の安全確保と健康の維持・増進に注力しています。

グループ一丸となってCSR活動を推進

2010年1月には、事業のグローバル化に伴ってCSRに関する考え方・取り組み方針をグループ全体で共有することが必要と考え、「アイシングループ企業行動憲章」を制定しました。以後、教育や啓発活動を通じてグループ全体への浸透を進めており、着実にCSRの意識が定着しつつあると感じています。2011年3月に発生した東日本大震災では、アイシン精機のみならず国内外グループ会社の従業員が積極的に支援活動に参加するなど被災地の復興に向け、グループ一丸となって取り組みました。今後も、グループ165社、7万人の従業員が一丸となってCSR活動を推進し、ステークホルダーの皆様とともに、持続的な成長を目指します。

お客様とともに

自動車部品関連

「お客様第一」を徹底するための活動を展開

アイシン精機では、お客様第一の原点に立ち返り「100%良品の商品」を提供し続けられるように、社長を委員長としたA-CF(アイシン・カスタマーファースト)委員会を設置しています。この委員会のもとに、専務が委員長を務める「設計」「製造」「仕入先」「市場」それぞれの「品質向上委員会」を設置しています。

これら委員会では、それぞれの目標と活動計画を定め、その進捗状況を、毎週、委員長がレビューし、改善の方向付けや、リソースの投入判断を行っています。また、2010年3月からは、新たにグローバル品質委員会を設け、世界の各地域のお客様情報を収集し、「走る・曲がる・止まる」などの基本的な品質に関わる情報を各委員会活動に伝達しています。

パーフェクトデザイン・パーフェクトライン活動で「100%良品の商品」を

「100%良品の商品」を目指すA-CF活動の重点活動は、「パーフェクトデザイン」と「パーフェクトラインづくり」です。設計は、「図面通りつくれば、良いものができる」パーフェクトな図面づくりを進め、お客様

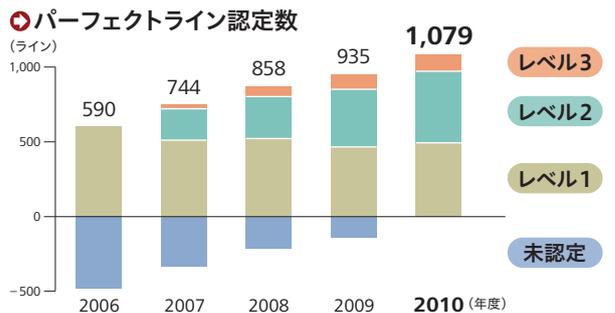
の声の把握と壊れ方の検証、評価の充実による未然防止の徹底を図っています。

さらに、生産技術・製造では、職場の活性化と人材育成・工程管理の充実により、不良品が生まれない「パーフェクトラインづくり」を進めています。「パーフェクトライン」は、社内で定めた基準に基づき、得意先様納入不良ゼロの継続と工程内不良低減のレベルに応じて、パーフェクトラインとして認定するしくみです。

2010年度時点では全ラインが、パーフェクトラインのレベル1以上に認定されています。今後、さらにラインの実力を上げたレベル2、レベル3を拡大させていきます。

こうした活動から、納入不良率についても2010年度は、2005年度比で約80%低減しています。

さらにこれらの活動が認められ、2010年度には日本科学技術連盟より「日本品質奨励賞 品質革新賞」を受賞しました。



各レベルの認定基準
 レベル1 3ヵ月以上納入不良ゼロ
 レベル2 6ヵ月以上納入不良ゼロ+工程内不良1/3
 レベル3 6ヵ月以上納入不良ゼロ+工程内不良1/10

3つの試験場で車両単位での評価を実施

アイシンは、実際に製品を搭載した自動車を走らせ、総合的に評価できる試験場を他の自動車部品メーカーに先駆けて整備してきました。1970年には愛知県に藤岡試験場を、1992年には北海道に豊頃試験場を開設。

また海外では、2005年に北米の日系自動車部品メーカーとして初めての試験場をミシガン州に開設しました。

近年、ますます進展する自動車部品のシステム化・複合化に対応するため、2005年、豊頃試験場に総合周回路を開設しました。一般の高速道路と同様の走行環境を整備するとともに、日本初の人工凍結路や全長17キロの未舗装悪路なども整えています。また、電波障害やITS(高度道路交通システム)関連の試験設備も設け、自動車に求められるさまざまな機能・性能を総合的に評価することができるようにしています。



**藤岡試験場
(1970年開設)**
所在地:愛知県
豊田市御作町
面積:約670,000m²
周回路:1周2.4km
悪路周回路:1周4.6km



**豊頃試験場
(1992年開設)**
所在地:北海道
中川郡豊頃町
面積:約7,480,000m²
総合周回路:1周7.9km
悪路周回路:1周17.0km



**ファーラビル・
ブルーピンググラウンド
(2005年開設)**
所在地:アメリカ合衆国
ミシガン州ファーラビル
面積:約3,530,000m²
周回路:1周4.8km
ダイナミックパッド:150R

VOICE

豊頃試験場スタッフから

世界の路面を再現した試験場です。

豊頃試験場は世界中の道路の路面情報をもとに設計しています。たとえば、総合周回路では一般路のようにバンクはなく、第2東名高速道路やアウトバーンなどの走行環境を模しています。また一部には特殊路面といわれる欧米のフリーウェイや欧州の郊外路などの路面を再現しています。

アイシン精機 信頼性技術部
商品評価グループ 豊頃評価チーム

杉浦 正明(右)
曾川 貴裕(左)



- ① アウトバーンを模した走行環境(総合周回路)
- ② 氷結した路面
- ③ 欧州のフリーウェイを模したコンクリート段差路(総合周回路)
- ④ 北米、豪州に多い過酷なオフロード路

品質マネジメントシステム規格の認証取得

アイシンでは、品質マネジメントシステムの自動車分野の世界共通規格であるISO/TS16949※1の認証取得を拡大しています。2011年7月10日現在、国内外49社※2で認証を取得しています。

※1 品質マネジメントシステムの国際標準規格であるISO 9001に、自動車産業向けの固有要求事項を付加した規格。

※2 アイシングループの子会社は除く。

グローバルQCサークル大会を開催

2010年10月、アイシン精機の人材育成センターでグローバルQCサークル大会を開催しました。

世界各地の生産拠点から、QC活動(小集団での改善活動)に取り組む従業員が集まり、30の事例を発表。優れた取り組みに対して藤森社長から表彰状が手渡されました。



グローバルQCサークル大会

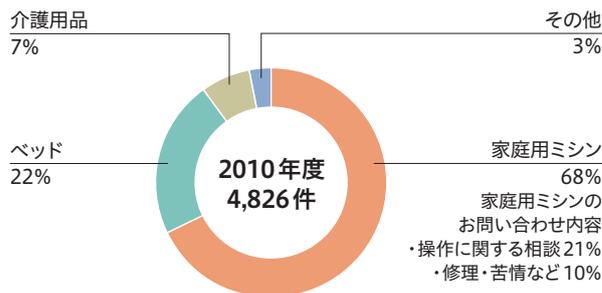
お客様の声を商品の改善に活用

「お客様第一」を徹底するための活動を展開

アイシン精機では、「お客様相談室」を設け、ミシンやベッドなどの住生活関連商品に関するお客様からのお問い合わせに迅速・的確・丁寧にお応えできるよう努めています。お問い合わせの多いミシンや車いすなどの商品については、さまざまなお問い合わせに、わかりやすく回答できるよう、実際に商品を確認しながら対応しています。

お問い合わせ内容は、商品の改善要望として開発部門にも展開し、新商品の開発にも活かしています。

お問い合わせ件数



お客様相談室でのお問い合わせ対応

カタログなどの表示を消費者視点で審査し、改善を実施

アイシン精機では、お客様に、安全に正しく商品をお使いいただくために、商品の取扱説明書やカタログ、ウェブサイトでの表記を検証する審査会を設けています。審査会では、主管部署であるお客様相談室のメンバーに加え、法務、品質保証、技術、営業の各部門のメンバーも参加して総合的に検証します。消費生活アドバイザーの資格取得者も含まれており、消費者の視点に立った審査に努めています。

審査は、新商品だけでなく、設計変更があった場合や、生産場所が変わるなどの変化があった場合にも実施し、わかりにくい表現を、図やイラストを用いてわかりやすく解説するよう改善を促したり、注意喚起が必要な点について目立つ表記に改めるよう指示しています。2010年度には、この審査会を138回開催しました。

また、カタログなどの制作担当者のスキルを高めるために、定期的な勉強会も実施しています。



各種商品カタログ

お客様の声にお応えした商品開発

ナビエリート iPhone向けカーナビアプリ「NAVIelite」

アイシン・エイ・ダブリュが、2011年1月に発売した、iPhone向け本格カーナビアプリケーション「NAVIelite」は、交差点などの詳細情報を含めた地図データを内蔵しているため、通信できない場所でも目的地検索、ルート設定/案内などのカーナビ機能が利用可能です。また、車載機でも評価の高いDoor to Doorダイレクトガイド、走行車線案内機能や、リアルタイムな渋滞



ナビエリート「NAVIelite」

情報を提供することで、的確でわかりやすい案内を実現しています。

発売以降、随時、お客様の声を反映し、地図画面表示の鮮明化や、案内音声の聞きとりやすさを向上するなど、さらなる商品の魅力向上を図っています。

要望にお応えして使いやすさを向上させた点

- 地図画面の表示の鮮明化 (iPhone 4 対象)。
- 案内音声の聞きとりやすさ向上。
- ピンチ操作で地図縮尺変更ができるように改善。
- 操作レスポンスを改善。
- 到着予想時刻をアナログ表示からデジタル表示に変更。
- 案内ルートからの離脱判定のスピードを向上。

電動車いす「タオライトII」

アイシン精機福祉関連事業では、折り畳んで自動車に載せることができる電動車いす※「タオライトII」を2004年から販売しています。

お客様から特にご要望が多かった、「バッテリーの接続」と「充電器の機能」を見直し、2010年4月にマイナーチェンジしました。

※ 車種や載せ方により載せられない場合がございます。



コネクターとバッテリーの接続を上から行うことができるように改良しました。



充電器にリフレッシュ機能を追加し、バッテリー本来の能力を十分に発揮させることができます。



タオライトII

安全を確保するための注意喚起

温水洗浄便座についての呼びかけ

温水洗浄便座は電気製品であるため、万が一故障した場合、そのまま使い続けると内部の電機部品の断線・発熱などが起こり、焼損事故に至る可能性があります。

アイシン精機では、2008年11月から、ウェブサイトを通じて、ご使用開始から長期間経過した温水洗浄便座をお使いの皆様へ、万が一の事故を防ぐための呼びかけをしています。



ウェブサイトのトップページ (<http://www.aisin.co.jp>) に、目にとまるよう表示し、詳細な説明を掲載したページに誘導。

従業員とともに

労働安全衛生

「安全と健康はすべてに優先する」を基本理念に

アイシン精機では、「安全と健康はすべてに優先する」という基本理念を掲げ、労働安全マネジメントシステム「OSHMS」に基づいて、定期的・自主的に職場を監査し、労働災害の未然防止に努めています。また、新規・改造・既存のすべての設備と作業に対してリスクアセスメントを実施しています。

さらに、機械ごと、作業ごとの詳細な安全対策実施基準を定めた「AGSS」(AISIN Global Safety Standard)を制定し、これにしたがって設備の安全対策や作業手順の改善などを進めています。AGSSは、海外のグループ会社も含むグループ全体に展開しています。

重点災害撲滅を目指す「安全ローラー作戦」

アイシン精機では、2009年度から、設備に関わる重点災害※を撲滅させるため生産部門役員を筆頭に、副工場長、製造部長、生産技術部長がチームを組み、毎月各工場を隔から隔まで点検する、通称「安全ローラー作戦」を展開しています。

2010年度の総不具合指摘件数は1,135件にのびりましたが、そのすべてについて、すでに改善を完了させました。

※ 重点災害：動力挟まれ、重量物接触、車両接触、墜落、感電、高熱物接触

グループ会社でも安全衛生活動を展開

アイシングループ主要12社で「オールアイシン安全衛生研究会」を組織し、活動しています。毎年7月の全国安全週間に「オールアイシン安全衛生大会」を開催し、安全表彰や事例発表などを行っています。また、同研究会の分科会である「安全部会」と「衛生部会」においても、さまざまな情報を交換し、グループ



オールアイシン安全衛生大会

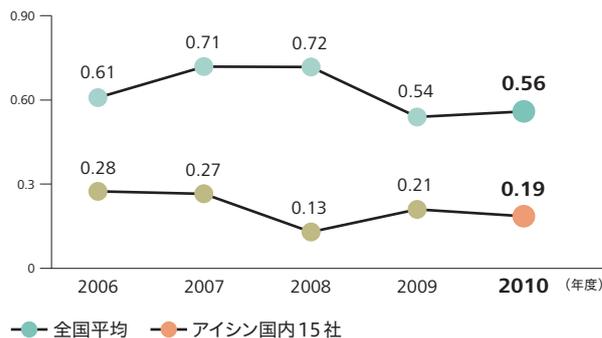


安全ローラー作戦
(アイシン・エイ・ダブリュ工業)

各社の活動のレベルアップも図っています。

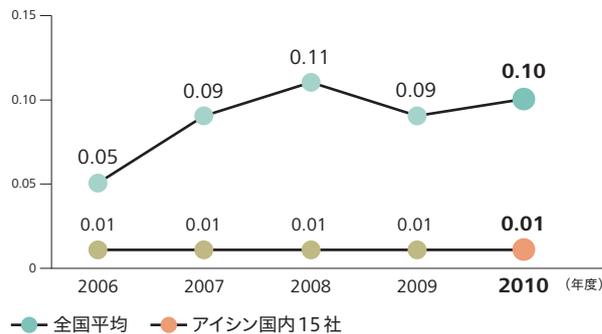
2011年2月からは、これまでアイシン精機単独で実施してきた「安全ローラー作戦」の対象をグループにも拡大。国内グループ全体の災害低減に努めています。こうした活動の結果、アイシン精機を含む国内グループ15社の労働災害の度数率、強度率は全国同業種平均を大きく下回る成績となっています。

労働災害 休業度数率 国内15社



休業度数率 = $\frac{\text{災害による死傷者数(休業)のべ労働時間}}{\text{のべ労働時間}} \times 1,000,000$

労働災害 強度率 国内15社



強度率 = $\frac{\text{労働損失日数}}{\text{のべ労働時間}} \times 1,000$

災害ゼロを目指して意識改革を推進

アイシン精機では、これまでの活動の成果として「設備要因」による災害は年々減少しています。次なる課題として「当たった、転んだ」といった「人的要因」のうっかり災害の低減を目指し、活動を続けています。

具体的には、「①走らない」「②歩行帯を歩く」「③ポケットに手を入れて歩かない」「④一旦停止、左右安全確認をする」を安全基本4行動と定め、会議やミーティングの場で声に出して自分が守るべき行動として宣言する「安全宣言」を実施することになりました。

アイシンは、グループ会社を含め、「世界一安全な企業グループ」を目指して、労働安全衛生活動を推進していきます。

従業員の健康を守る ～ウェルセンター開設～



① 診察室
② 待合室
③ ウェルセンター外観

従業員の健康増進、維持・管理をより強力にサポートするため2011年1月、安全衛生部健康推進グループから「健康推進センター」を新たに独立させ、その活動拠点として、4月に「ウェルセンター」を開設しました。

アイシン精機では、定期的に健康診断を実施して従業員の健康状態を把握し、その保持・増進に努めています。同センターが中心となって、従業員が心身ともに健康を保てるよう健康管理体制の充実、メンタルヘルス対策などに取り組み、特に、仕事においても私生活においても従業員が健康に過ごせるよう、予防活動に重点をおいて活動しています。

ウェルセンター(2011年4月開設)

- 1 F: 診療所
- 2 F: 健康推進センター、マッサージルーム
- 3 F: メンタルヘルスサポートフロア

健康の維持・増進

メンタルヘルスカを充実させるために多角的に取り組む

アイシン精機では、心の病気を早期に発見し、対応するために、定期健康診断時に「職場ストレス簡易調査票」を実施。病気の兆候が見られた従業員には、専門家との面談を受けさせています。

また、メンタルヘルス対策の一環として従来から「リスナー制度」を導入し、悩みを抱えている従業員の良き「聴き手」を育てるために「リスナー活動推進研修」を実施しています。同研修を修了した従業員を各職場での「リスナー活動推進者」として登録し、彼らが職場内の他のメンバーに積極的に声かけをすることで、心身の健康について気軽に相談できる職場づくりに

努めています。また、管理・監督者に対する「リスナー教育」も実施し、日常業務の中で、いつもと違う部下の様子に気づき、話を聴いて、必要に応じて健康推進センターに相談できるようにしています。



リスナー教育

人権・多様性の尊重

人権を尊重して行動することを宣言

アイシンでは、「アイシングループ企業行動憲章」において、企業として人権を尊重して行動することを宣言しています。

従業員の人格、個性、多様性を尊重するとともに、安全で働きやすい環境を確保し、ゆとりと豊かさの実現を目指しています。

障がい者も健常者も、共にいきいきと働ける職場づくりを目指して

アイシン精機では「ノーマライゼーション・共生」という考えに基づいて、障がい者も健常者も共にいきいきと働ける職場づくりを目指しています。障がいのある従業員に対しては「生活相談会」を定期的で開催し、仕事や日常生活での悩みなどの相談に応じています。また、生活相談員や職場上司に対して、障がいへの理解を深めてもらうために「管理監督者研修会」を実施しています。

アイシングループ主要12社では、「障がい者雇用連絡会」を開催し、各社が自社の関係会社を支援できる運営体制の構築を図っています。

障がい者の技能教育にも注力しており、2010年度には、その成果として、アイシン精機工機工場の従業員がアビリンピック(全国障害者技能競技大会)において金賞(機械CAD種目)を獲得しました。

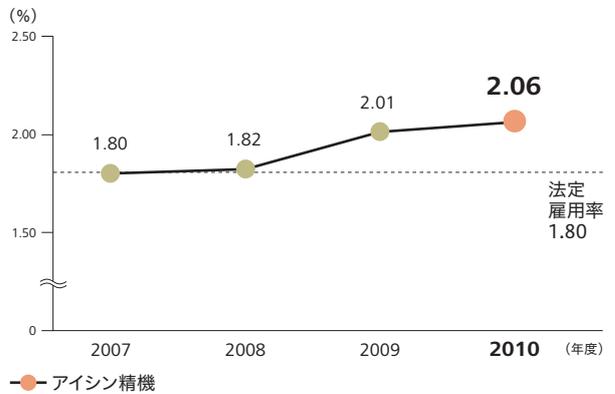


アビリンピック受賞者
アイシン精機工機工場
玉寄 涼さん



アビリンピックで作業中の玉寄さん

障がい者雇用率



FOCUS

役員向け人権講演会を開催

アイシン精機では、中途入社を含む新規採用者、昇格者を対象とした研修プログラムなどで、人権教育を実施しています。研修では、一人ひとりの多様性を尊重することが人権の尊重につながることを示した上で、同和問題、女性の人権、外国人の人権、障がい者の

人権などについて教育しています。2010年度には、のべ733人が受講しました。

さらに、2010年度には、新たな試みとして、役員向けの人権講演会を開催しました。今後、毎年1回開催していく予定です。

2010年度人権教育受講者数

新入社員.....302人
中途入社.....92人
昇格者.....285人
役職任用前対象者.....54人

2010年度役員向け人権講演会の概要

講師：近畿大学人権問題研究所教授 北口末広氏
テーマ：「変革の時代—企業と人権—コンプライアンスの視点で」
対象者：アイシン精機全役員、国内グループ各社の社長および経営管理部門役員
出席人数：197人



役員向け人権講演会

ワーク・ライフ・バランス

仕事と家庭の両立を支援

少子化による人口減少や高齢化など、日本社会の労働人口構成が変化している中において、企業には、これまで活躍機会が少なかった人材にもその能力を発揮できる環境を提供し、「ダイバーシティ(人材の多様性)」を確保することで、活力を高めていくことが求められています。そのためには、従業員が多様な働き方を選択できるような環境を整備し、仕事と育児などのプライベートな生活とのバランス、つまりワーク・ライフ・バランスを確保できるよう、従業員を支援することが重要だと考えています。

アイシン精機では、ワーク・ライフ・バランスの適正化を目指し、労働時間の短縮を中心に、労使が一体となってさまざまな取り組みを実施しています。これまで、短時間勤務制度や育児休業制度の整備、託児所の開設などに取り組んできました。2010年6月には、育児・介護休業法の改正に合わせて、制度をさらに拡充しました。要介護認定の家族を介護するための休暇の新設、育児のための短時間勤務の対象時間拡大、子の看護休暇の付与日数の拡大など、仕事と育児・介護が両立しやすい環境づくりを図っています。

なお、2007年10月にアイシン精機本社敷地内に開設した社内託児所「AI^{アイ} マミーズサポート」では、0歳から5歳までの乳幼児32人(2011年6月末時点)を預かり、勤務実態に合わせた保育サービスを提供しています。



アイ
AI マミーズサポート

○育児・介護支援制度利用者数(アイシン精機) (人)

		2008年度	2009年度	2010年度
育児休業制度	女性	53	72	63
	男性	2	0	6
介護休業制度	女性	2	3	0
	男性	2	3	4
育児のための短時間勤務制度	女性	152	129	153
	男性	13	13	20

○育児・介護支援制度

制度名	内容
産前・産後休業制度	法定どおり産前6週間(多児妊娠は14週間)、産後8週間取得が可能です。
育児休業制度	子が1歳の年度末(3月31日)または、子が1歳6か月を超えない範囲を上限に育児休業の取得が可能です。
育児のための短時間勤務制度	小学校入学前の子をもつ従業員が、以下の範囲で就業時間の短縮が可能。日々の就業時間短縮のほか、8時間を休日としても利用できます。 (子が4月1日時点で0~2歳の場合) 年間 488時間 (子が4月1日時点で3~5歳の場合) 年間 244時間
子の看護休暇	小学校入学前の子をもつ従業員が、子の看護のために、1人につき年間累計5日まで取得が可能です。(2人以上は年間累計10日まで)
介護休業制度	要介護状態にある家族を看護・介護する従業員が、要介護者1人につき合計が1年を超えない範囲で取得が可能です。
介護休暇	要介護状態にある家族の介護を行う従業員が、要介護者のために、1人につき年間累計5日まで取得が可能です。(2人以上は年間累計10日まで)
あんしん休暇	有給休暇を使わずに2年を超えて残した場合、その日数は最高20日まで「あんしん休暇」として繰り越すことができ、本人の傷病や配偶者、子、親の看病が必要な場合に取得が可能です。
有給休暇・半日有給休暇	年間17~20日支給されます。 半日単位での利用も可能です。(半日有給休暇については、フレックスタイム適用者は利用不可)
残業・休日出勤・深夜勤務の制限	小学校入学前の子(深夜勤務の場合:中学校入学前の子)をもつ従業員、ならびに、要介護状態にある対象家族を介護する従業員が利用できます。

サプライヤーとともに

調達基本方針

- ① 相互信頼による相互発展
- ② オープンで公正な競争
- ③ グリーン調達の推進
- ④ 良き企業市民を目指した現地化の推進
- ⑤ 法の順守

グリーン調達

サプライヤー環境管理レベルの向上を支援

アイシンでは、グループ統一の「アイシングループグリーン調達ガイドライン」に基づき、サプライヤーと共に環境活動の促進を図っています。

さらに、サプライヤーの環境マネジメントシステムの構築を支援するために、サプライヤー環境管理レベルアップ活動を展開。2010年度は、グループのサプライヤー225社にチェックシートによる自主点検を呼びかけるとともに、実際に現場を訪問し、改善活動を推進しました。

労働安全衛生

設備の安全性を点検

アイシン精機では、2009年度からアイシン協協会※の安全環境委員会と協業して「設備安全点検」を実施しています。5ヵ年計画で、66社のサプライヤーの工場設備、計12,000台を点検する予定です。2年目となる2010年度には、3,250台を点検しました。

※ アイシン協協会：アイシンのサプライヤー各社の親睦団体として発足し、現在では、講演会や研修会を通じて、情報交換および相互研鑽を図っています。



設備安全点検

相互信頼による相互発展

サプライヤーの「困りごと」の解決を支援

アイシン精機では、「困りごと即断検討」活動を推進し、現場訪問などを通じてサプライヤーが抱えている問題や悩みをヒアリングし、これらを解決するためのアドバイスを提供しています。

2010年度には、6人の専任スタッフが計416回のヒアリングを実施しました。その結果、品質向上などの面で大きな成果を上げています。

現地調達化の推進

新規の現地サプライヤーの開拓を推進

アイシン精機では、新興国での事業拡大を目指し、現地サプライヤーの開拓を進めています。

2010年度には、新たに取引を予定している中国のメーカーについて、品質、コストなどの面で評価を実施しました。また、ブラジルやインドネシアで新規サプライヤーを開拓するための調査も実施しています。

法の順守

下請法順守の徹底に向けた教育

アイシンでは、下請事業者に対する責任の基本とも言える下請法を順守するために、調達部門の担当者を対象とする講習会を定期的に行っています。

2010年度には、調達部門以外の他部門やグループ会社においても順守徹底のための教育を実施しました。



下請法講習会(2010年1月) 150人参加

株主・投資家とともに

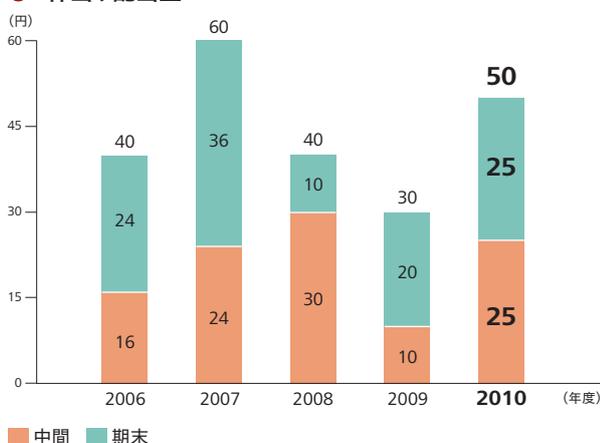
利益配分

配当水準の安定的向上を追求

配当水準の安定的な向上を目指す一方で、アイシン精機が成長を続け、将来の株主利益を確保するためには、有効な先行投資も重要だと考えています。

そこでアイシン精機は、この両者をバランスよく実現することを目指しています。

1株当たり配当金



情報開示

公正かつ適時適切な開示

株主や投資家の皆様をはじめとするすべてのステークホルダーの方々にアイシンを正しく理解していただくため、公正かつ適時適切な情報開示に努めています。

情報開示については、社内規定により、内部重要情報の管理、適時開示についての体制および手続きを定めています。この規定に基づき、各会議体での議案や、アイシン内外で発生した重要な事実については、即時に各部門、グループ会社の情報管理責任者に報告することとしています。報告を受けた情報管理責任者は、「判定会議」を招集し、代表取締役に報告するとともに、適時開示の措置をとっています。

このほか、国内外における決算説明会の開催や、本レポート、株主への報告書の発行、ウェブサイトでの最新の企業情報の提供など、さまざまな方法で有用と思われる情報を広く公開しています。

株主総会

参加いただきやすいよう集中日を避けて開催

アイシン精機では株主総会をできるだけ多くの株主の皆様にご参加いただけるよう、集中日を避けて早めに開催しています。

2011年6月21日に開催した第88回定時株主総会には、昨年を上回る285人に参加いただきました。



株主総会

IR活動

説明会やウェブサイトを通じたコミュニケーション

アナリスト・機関投資家向けには、四半期ごとに開催する決算発表会・会社説明会のほか、個別取材にも適時対応しています。また、海外の投資家に対しては、欧州、北米、アジアの各地で年1回程度、説明会を開催しています。

個人投資家向けには、2009年度に開設した個人投資家向けウェブサイト上で、当社の業績や新商品をわかりやすく紹介しています。ウェブサイトは定期的に更新し、更新情報やニュースリリースをお知らせするメールも配信しています。

こうしたコミュニケーションを通じていただいたご意見やご要望を、事業活動に活かすよう努めています。



個人投資家向けウェブサイト
<http://www.aisin.co.jp/finance/personal/index.html>

地域社会とともに

基本的な考え方

「Be With(共に生きる)」を合言葉に

アイシンでは、「自然・環境保護」「青少年育成」「まちづくり」の3つを重点分野として、地域に密着した企業市民活動に積極的に取り組んでいます。

企業も一市民として、地域社会の皆様と「共に」社会的な責任を果たしていくことが重要であるとの考えから、「Be With(共に生きる)」を合言葉に、活動を進めています。活動は海外の拠点やグループ会社にも浸透し、アイシンの「Be Withの輪」は、世界中に広がっています。

従業員のボランティア活動促進

気軽に参加できるボランティアメニューを提供

アイシン精機では、専門部署「さわやかふれあいセンター」が中心となり、従業員が気軽に参加できるボランティアメニューを提供することで、従業員のボランティア活動に対する意識向上と活動促進を図っています。また、グループ主要会社でも、ボランティア活動を推進する部署または担当者を設置し、ボランティア活動を推進しています。

従業員が気軽に参加できるボランティアメニュー

地元地域で

- 会社周辺で交通安全を呼びかける「交通立哨」
- 会社周辺地域の清掃活動「クリーン活動」
- チャリティーコンサートの収益金や募金でNPO活動を支援する「オールアイシンNPO活動応援基金」

社員食堂で

- 障がい者作業所でつくられる軽食、デザートの販売
- 発展途上国の食糧支援プログラム「Table for Two」(カロリー控えめのメニューを注文すると途上国での一食分に当たる20円が寄付される)

家族と一緒に

- ものづくり出前講座
- 富士山の植樹活動
- 親子わんぱく体験 in 根羽村
(長野県根羽村での森林保護活動)



社員食堂で「Table for Two」のメニューを提供

FOCUS

アイシングループ一体となって企業市民活動を推進



第8回富士山植樹活動

アイシンでは、グループ主要12社が一体となってさまざまな企業市民活動を推進しています。

2003年度に開始した、富士山の森林再生を目指す「緑の再生プロジェクト」もその一つです。2010年5月には、グループの従業員とその家族260人に加え、地域の皆さんにも参加いただき、8回目の植樹活動を実施しました。

また、グループ従業員からの募金や、毎年秋に開催している「オールアイシンチャリティーコンサート」の収益金でNPOを支援する「オールアイシンNPO活動応援基金」にも継続して取り組んでいます。2010年度には、12の団体を援助しました。

NPOと協力して取り組む小学生向け環境学習プログラム

アイシン精機では、2006年度から特定非営利活動法人(NPO)アスクネットと協力し、小学生を対象とした「アイシン環境学習プログラム」を展開しています。

当社が事業拠点を置く愛知県の刈谷市をはじめとした西三河地域の小学校で、4、5年生の「総合学習」の授業の一環として実施されています。座学だけでなく、学校周辺の川などでの体験学習、オリジナルの教材を使った「シンパシーワークショップ」、家族や地域の方々と環境について語り合う「エコトークセッション」など、さまざまな趣向をこらし、楽しく学んでもらえるようにしています。2008年度からは、グループ会社のアイシン・エイ・ダブリュでも、このプログラムを実施しています。過去には、このプログラムがきっかけとなり、天然記念物の保護活動が始まったこともありました。

2008年度に西尾市の八ッ面小学校の体験学習で川の生物調査を実施したところ、県が天然記念物に指定する昆虫「ヒメタイコウチ」が発見されました。この出来事はエコトークセッションで発表され、そこにお招きした市議員の協力によって、市を挙げたヒメタイコウチの保護活動が始まりました。その後、プログラムに参加した子どもたちが社会福祉施設を訪問して保護の必要性を訴えるなどさまざまな啓発活動が進められ、保護に向けた意識が市民の間に着実に広がっています。

2010年度の世界環境学習プログラムには、9市21校1,621人の小学生が参加しました。今後も、この環境学習プログラムを通じて子どもたちに生き物の命の尊さを伝えていきます。

環境学習プログラムのフロー



VOICE 協力NPOの声

新たに学校にプログラムの導入を検討していただく際に、地域の代表企業であるアイシン精機さんと一緒に活動を行うことで、より信頼性をもって、学校にご紹介することが可能となります。また、アイシン精機さんにとっても、企業単独で行うより、私どもと一緒に活動を行うことで、より公共性の高いプログラムとして、学校側にお伝えすることができると思います。それぞれがもっているノウハウやネットワークを互いに活かし、補いながら、今後も、地域にとって有用な活動を展開していきたいと思えます。アイシン精機さんという素晴らしいパートナーに出会えたことに心より感謝いたします。



特定非営利活動法人
アスクネット
(ASK-NET)代表理事
教育コーディネーター
白上 昌子様

日本：ものづくりの楽しさを子どもたちに

アイシンは、子どもたちにもものづくりを通じて科学や技術の面白さを知ってもらうための社会貢献活動に積極的に取り組んでいます。従業員やOBがボランティアで講師を務める工作教室「アイシンものづくり広場」もその一例です。

9回目となる2010年度は、近隣の小学生約100人を迎え、「浮力と推進力」をテーマに開催。参加した子どもたちは、ホバークラフトの動くしくみを学んだ後、従業員やOBと共にミニホバークラフトを製作し、走行させました。真っ直ぐ速く走るようにするため、モーターの位置を微調整するなど、ものづくりや改善の楽しさを学んでもらいました。



アイシンものづくり広場

米国：高校生のロボット競技チームを支援

Aisin Technical Center of America, Inc.は、教育支援の一環として、地元ミシガン州リポニアの高校生のロボット競技チーム「リポニア・ウォリアーズ」のスポンサーを務めています。2009年度から、FIRST※が主催するロボット競技大会への参加資金や部材を提供するとともに、従業員がロボット製作を手伝っています。

※ 米国で科学技術教育を支援している非営利団体



高校生のロボット競技チーム

中国：子どもたちの就学を支援

2010年3月、浙江愛信宏達汽車零部件有限公司は、子会社の台州愛信瑞豊汽車零部件有限公司の生産開始を機に、貧困家庭の子どもたちの就学を支援するための基金を設立しました。



奨学金の贈呈式

オーストラリア：津波被災地にミシンを寄贈

2010年5月、Aisin (Australia) Pty. Ltd.は、津波によって一部の施設が流されるなど大きな被害を受けたソロモン諸島の学校に対して、職業訓練に使われるミシン10台を寄贈し、再興を支援しました。



ミシンを使って訓練を受ける学生たち

トルコ：小学校に文具や衣服を提供

Aisin Otomotiv Parcalari Sanayi Ve Ticaret A.S.は、トルコ東部、イランとの国境近くにある小学校を支援しています。

紛争の被害で授業が中断されていた同校に対して、2009年度より寄付金とともに必要な備品や文房具を寄贈しています。2010年度も引き続き全従業員から寄付を募り、文房具や洋服、玩具などを寄贈しました。



2009年10月に再開された小学校に通う児童たち

東日本大震災被災地への支援

グループの総力を挙げて支援を実施

2011年3月11日の巨大地震に端を発する東日本大震災は、過去に類のない甚大な被害をもたらしました。アイシンでは、被災したグループ会社や顧客企業、そして地域住民の方々を支援するために、グループを挙げてさまざまな活動に取り組んでいます。

義援金の寄付

被災地の復興に活用していただくために、中央共同募金会を通じてグループ主要12社が共同で義援金1億円を寄付しました。

支援物資の提供

アイシングループで連携を図り、ペットボトル飲料や即席めんなどのインスタント食品、毛布や乾電池などの日用品など必要な物資を手配し、地震発生の翌日からトラックによる被災地への送付を開始しました。被災地域、顧客企業、グループ会社に、あわせて45トンの物資を送りました。



陸前高田市に到着した物資。現地に派遣されていた従業員で荷下ろしも担当

自社商品での支援活動

アイシン精機製のガスコージェネレーションユニットを停電中でも電気とお湯を供給できるシステムに改造し、シャワールームとともにトラックに搭載した「エネルギー車」をつくりました。2011年6月から、このエネルギー車で孤立した避難所に赴き、電気と温水シャワーを提供しています。

特に、個室のシャワールームが喜ばれており、多くの方々に利用されています。



岩手県大槌町で稼働中の「エネルギー車」



シャワールーム

被災地での人的支援

震災発生後ただちに、先遣隊として、総務、生産管理、生産技術、保全など各部門から担当者を派遣し、関係会社の復旧支援や被災地での支援物資の配付などを行いました。

6月からは、トヨタグループ15社で行う現地での復興支援活動に、アイシン精機従業員もボランティアとして参加。参加者は事前研修を受け、現地状況の理解を深めた上で、被災地でのがれきの撤去や側溝の泥出しなどの活動にあたりました。トヨタグループでは、2011年7月末までに計6回のボランティア派遣を実施しましたが、現地でのニーズに応え、今後も活動を続けていきます。



(岩手県大船渡市)住宅地の側溝に溜まった泥出し。泥は土嚢に袋詰めする

従業員らによる募金活動

国内・海外のグループ各社で従業員に対して募金を呼びかけるとともに、バスケットボールチーム「アイシンシーホース」の選手らも街頭で募金活動に取り組みました。集まった約5,700万円は、義援金として寄付しました。



社員食堂で募金の呼びかけ



「アイシンシーホース」選手らによる街頭募金

各国の海外拠点の従業員も寄付などを通じて支援



英国：近隣住民や従業員からの募金



米国：折鶴1羽ごとに子ども服1枚が寄付されるキャンペーンへの参加



米国：支援T-シャツを販売し、売上を寄付



中国：従業員からの募金

Governance

取締役及び監査役(2011年6月21日現在)

取締役会長	豊田 幹司郎	取締役	宮本 豊
取締役社長	藤森 文雄	取締役	矢木 伸介
取締役副社長	中村 俊一	取締役	石川 敏行
取締役副社長	新井 益治	取締役	川田 武司
取締役副社長	小吹 信三	取締役	石川 勉
取締役副社長	名倉 敏一	常勤監査役	奥 矩雄
専務取締役	藤江 直文	常勤監査役	榎田 銀弘
専務取締役	森田 隆史	監査役	豊田 章一郎
専務取締役	島貫 静雄	監査役	小林 量
専務取締役	三矢 誠	監査役	高須 光
専務取締役	水島 寿之		
専務取締役	榎本 貴志		
専務取締役	宇佐見 一美		



取締役会長
豊田 幹司郎

取締役社長
藤森 文雄



取締役副社長
小吹 信三

取締役副社長
中村 俊一

取締役副社長
新井 益治

取締役副社長
名倉 敏一

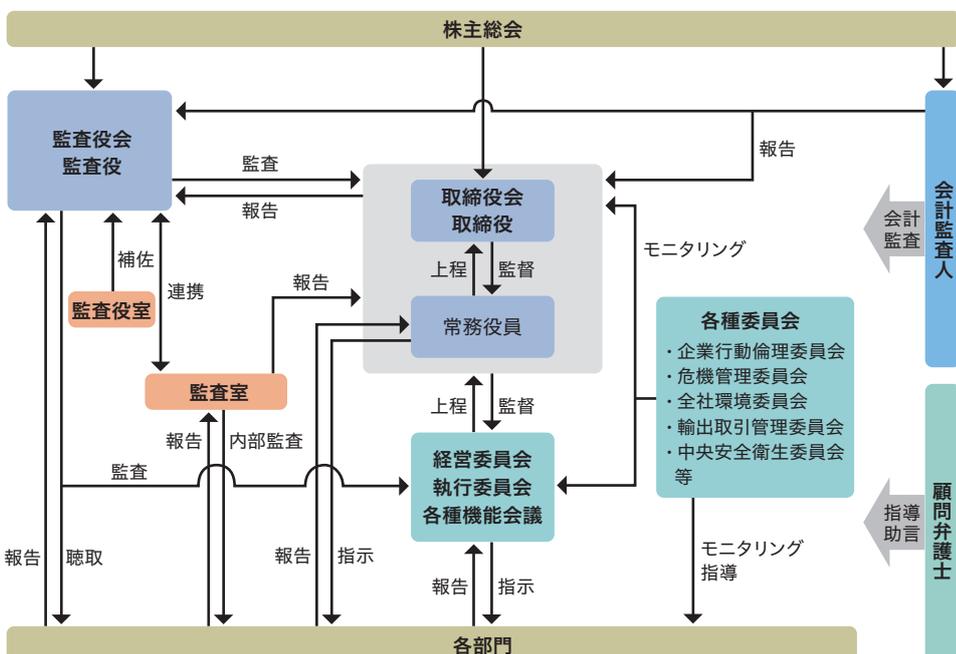
コーポレート・ガバナンス

公正で透明性の高い経営を目指して

アイシン精機では、企業価値の最大化に向けて、すべてのステークホルダーと良好な関係を築き、長期安定的に成長し、発展していくことを目指しています。

その実現には、国際社会から信頼される企業市民として、公正で透明性の高い経営活動を展開することが重要であると考え、コーポレート・ガバナンスの充実を図っています。

コーポレート・ガバナンス体制



監査役会設置会社として、株主総会、取締役会、監査役会を法定の機関として設置しています。

監査役会(監査役5人)
監査役会は、社外監査役3人を含む5人の監査役から構成されています。取締役の職務執行を監査するとともに、各部門の業務執行状況を聴取し、経営や業務執行が適正なものであるかどうか検証しています。

取締役会(取締役18人)
原則として毎月1回開催し、経営に関わる重要事項の決議、業務執行の監督にあっています。

CSRマネジメント

憲章・行動指針

社会・地球の持続的発展への貢献を目指す 「アイシングループ企業行動憲章」

「アイシングループ企業行動憲章」(2010年1月制定)において、社会・地球の持続的発展に貢献することや、従業員の人格・個性・多様性を尊重すること、積極的なコミュニケーションによってステークホルダーとの健全な関係の維持・発展に努めることなどを定めています。この憲章に基づいて、さまざまなテーマでCSR活動を推進しています。

なお、2010年度までに、国内子会社71社に加えて、北米などに拠点を置く23社が本憲章の採択を終えました。2011年度も引き続き、各国・各地域の実情を踏まえて本憲章の展開を進める予定です。



日本語版、英語、スペイン語、ポルトガル語版の企業行動憲章

行動指針を通じて憲章の浸透・実践を推進

従業員が「アイシングループ企業行動憲章」の精神を実践できるよう、具体的な行動基準となる「社会的責任を踏まえた行動指針」を策定するとともに、本社、工場、営業拠点などで説明会を実施しています。

また、行動指針を冊子にまとめたものを全従業員に配布しています。

組織体制

CSR推進に関わる各種委員会を設置

「企業行動倫理委員会」や「全社環境委員会」「中央安全衛生委員会」など、社内外のステークホルダーの関心や期待に応える経営を推進していくための各種委員会を設置しています。

これら委員会では、それぞれのテーマについて社内をモニタリングし、その結果を取締役会などに伝えることで、各活動の改善につなげています。

教育・啓発

CSR取り組みの定着を目指して

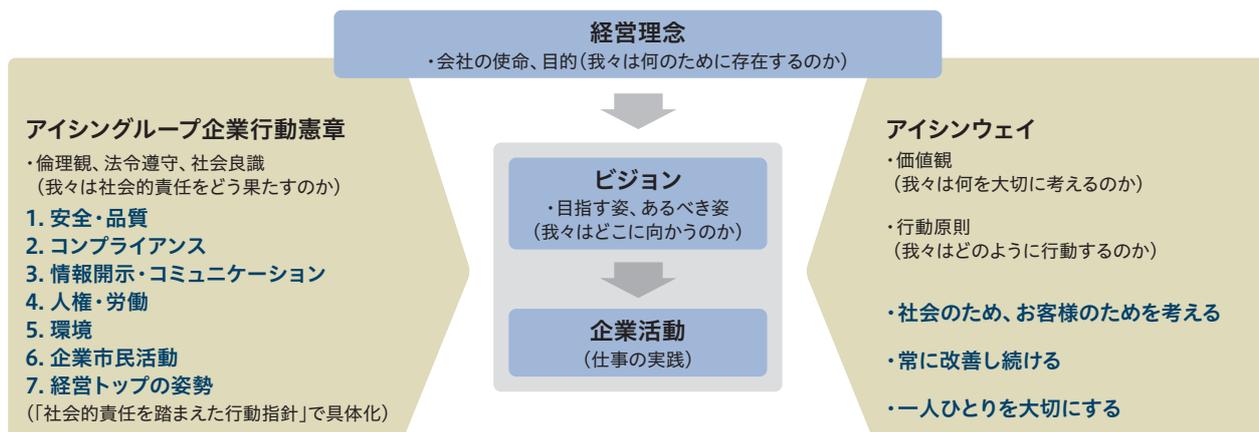
従業員一人ひとりにCSRに対する意識を浸透させ、CSRの視点での取り組みを定着させるために、階層別研修においてCSR研修(一般の従業員向け)とCSRマネジメント研修(管理者向け)を実施しています。

さらに、海外拠点のトップ層向けにトップマネジメント研修を実施し、アイシンの考え方である「アイシンウェイ」を浸透させると同時にグローバルにCSRを推進しています。



トップマネジメント研修(海外拠点のトップ向け)

CSRマネジメント概念図



コンプライアンス

憲章・指針

コンプライアンスの徹底を宣言

アイシンは、コンプライアンスの徹底を「アイシンググループ企業行動憲章」で宣言しています。また、「社会的責任を踏まえた行動指針」において、具体的な業務において注意すべき法令などを、Q&A形式で紹介しています。

コンプライアンスに関する行動指針の概要

(「社会的責任を踏まえた行動指針」から抜粋)

- 一人ひとりの遵法意識
- 透明性のある購買取引
- オープンで誠実な行動
- 官民の健全な関係
- 真のグローバル企業になるために
- 情報の管理と保護等
- オープンでフェアな競争
- 知的財産の保護
- 適正な取引方針の確立

組織体制

企業行動倫理委員会を設置

グループ主要12社では、法令遵守を含む企業倫理に関する重要事項について審議し、方針を決定する企業行動倫理委員会(またはこれに類する会議体)を設置しています。

副社長など経営トップを委員長として、1992年に初めて開催して以来、毎年1~3回のペースで開催しています。

内部通報制度の周知を推進

グループ主要12社では、コンプライアンスに関する通報・相談窓口を各社内(法務部など)と社外(法律事務所)にそれぞれ設置し、不正行為などの早期発見と是正に努めています。

相談は、従業員とその家族、取引先の皆様から受け付けており※、通報・相談者の氏名・内容などは秘密とすることを規程上明記し、これを厳守しています。また、通報・相談したことを理由に、解雇・減給などの不利益な扱いを受けることがないよう、職場の管理者に対して研修などを通し徹底しています。

2010年度は、相談窓口をより多くの人知ってもらい、気軽に利用してもらえるよう、社内報やポスターでの告知活動に重点的に取り組みました。

※ 相談窓口の利用対象者は各社で多少異なります。

○通報・相談件数(グループ主要12社)

(件)	2008年度	2009年度	2010年度
社内の通報・相談者から	234	209	195
社外の通報・相談者から	20	24	24
合計	254	233	219

教育・啓発

従業員への周知徹底

階層別研修やテーマ別研修の中でコンプライアンス教育を実施し、各種法令の周知徹底を図っています。2010年度は、独占禁止法、輸出管理、契約の基礎などの研修を実施しました。

また、毎年10月をグループ合同で「企業行動倫理強化月間」と定め、標語の募集や職場での話し合いを通じて、従業員一人ひとりに普段の行動を振り返り、企業行動倫理について考えてもらう機会を設けています。

○コンプライアンス研修受講者数(グループ主要12社)

(人)	2008年度	2009年度	2010年度
役員	145	215	157
管理職	842	2,035	672
階層別			
一般従業員	2,509	2,855	2,026
(うち、中途含む新入社員)	(1,299)	(996)	(666)
派遣社員	172	74	184
階層別計	3,668	5,179	3,039
テーマ別計	1,958	4,521	5,284

○「企業行動倫理強化月間」ポスター



日本語版ポスター



ポルトガル語版ポスター

日本語版のほか、英語版、ポルトガル語版も制作し、展開しています。

コンプライアンスを浸透させるため、職場単位でケーススタディを実施しています。イントラネットに掲載している、コンプライアンス上判断に迷いそうな事例を題材として、各職場で、どこに問題があり、どうすれば防ぐことができるかを議論します。事例集は、ポルトガル語も用意しています。

このほか、グループ各社の社内報では、コンプライアンスに関わる事例と解説を連載で掲載するなど、継続して意識啓発に努め、従業員一人ひとりへの浸透を図っています。



職場ミーティングで、コンプライアンスのケーススタディを実施

コンプライアンス意識調査を実施

2010年度は、従業員を対象としたコンプライアンス意識調査をグループ共通で実施し、35,243人から回答を得ました。その結果、企業行動倫理相談窓口の周知率や職場のハラスメントへの意識などについてグループ各社の傾向が似通っていることがわかりました。

2011年度以降は、グループ共通の取り組みをさらに推し進め、グループ全体のボトムアップを図っていきます。

情報セキュリティ

基本的な考え方・組織体制

各種規程・方針を整備し、情報漏洩を防止するための体制を構築

アイシン精機は、機密情報や個人情報の漏洩を防止するための各種規程や方針を定めています。これらにおいて、お客様・取引関係者・従業員などの機密情報・個人情報を取り扱う場合には法令や社会規範を遵守することを明記しています。

また、全社推進体制のもと、各部門に機密管理責任者を置き、情報漏洩の防止に努めています。情報漏洩が発生した場合や、発生の疑いがある場合は、緊急対策本部を設置し、調査や二次被害防止、被害者への対応にあたることとしています。

情報セキュリティに関する各種規程・方針

- アイシングループ企業行動憲章
- 機密情報管理規程
- 個人情報保護基本方針
- 個人情報保護規程
- サイバー情報セキュリティ管理規程

サイバー情報セキュリティ

情報漏洩を防止するために管理を徹底

アイシン精機の情報や情報システムを保護するための手順をサイバー情報セキュリティ管理規程に定めています。情報の重要度に応じて建物ごとにセキュリティレベルを定め、それぞれのレベルに応じた入退場管理や施設管理を実施しています。

パソコンやUSBメモリなどの外部記憶媒体については、情報漏洩などを防ぐために登録管理を行っており、社外への持ち出しも許可制としています。パソコンはワイヤーロックでの固定を徹底しています。また、重要文書のデータはセキュリティソフトを使用し、外部の人は見ることはできないようにしています。

アイシン精機株式会社

<http://www.aisin.co.jp>

将来に関する予測・計画について

この報告書に記載されている「アイシン精機株式会社および連結子会社・関連会社」(以下、アイシン)の現在の計画、見通し、戦略、確信などのうち、歴史的な事実でないものは、将来の業績に関する見込みです。これらは、現在入手可能な情報から得られたアイシンの経営者の判断に基づいており、リスクや不確実性が含まれています。実際の業績はさまざまな要素により、これらの業績予測とは異なり得ることをご承知おきください。実際の業績に影響を与え得るリスクや不確実な要素には、以下のようなものが含まれます。(1)アイシンの主要な事業領域における経済情勢、為替レート、法律、規制、政策、または政治情勢の変化、(2)タイムリーかつ顧客に受け入れられる新商品を開発するアイシンの能力・機能を取り巻く状況の変化、(3)アイシンの商品市場または部品・材料・資材を調達する地域における燃料供給の不足、交通機能のマヒ、ストライキ、作業の中断、または労働力確保が困難である状況、(4)偶発事象の結果、などです。ただし、業績に影響を与え得る要素はこれらに限定されるものではありません。